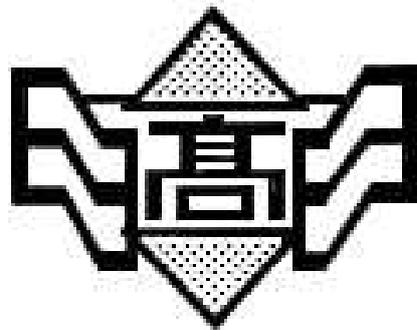


学 習 の し お り

3 年 生 用



2 0 2 0

宮城県宮城広瀬高等学校

目 次

1. 可能性を広げる確かな学力のために	1
2. 平成30年度入学生教育課程表	3
3. 各科目の年間学習計画と学習の仕方（各教科）	4
4. 学習計画表（第1回～第4回定期考査）	6 6
5. 考査点・評価点をまとめよう	8 2
6. 私のスケジュール	8 3

可能性を広げる確かな学力のために

宮城広瀬高等学校 教務部

「学力」は総合力です。基礎的な知識や理解力だけでなく、一生懸命取り組もうとする意欲や学び努力しようとする姿勢、創造力や表現力などは、これから皆さんが社会に出て生きていくときに必要なものです。これらは授業を中心とする高校生活の活動をとおして学んでいくことができます。高校で一生懸命勉強した人は、その後人生においても自分の可能性を広げることができるのです。

この「学習のしおり」は、皆さんがこれから1年間、授業で学ぶそれぞれの教科・科目について、学習目的、学習内容、評価の方法と基準をまとめたものです。また、定期考査毎の学習計画表など、自分で自主的に取り組めるようになっており、皆さんの学習に役立つように工夫してあります。

1 履修について

履修とは授業に出席してきちんと授業を受けることをいいます。本校では、授業の欠席時数が標準時数（単位数×35時間）の3分の1を超えると履修が認められません。また、本校では全科目の履修を義務づけています。つまり、授業をある一定以上休んでしまうと履修が認められず、履修が認められない科目が1つでもある場合は、もう一度最初から同じ学年をやり直さなければなりません。

2 単位について

本校で設定している教科・科目は、それぞれに単位が定められています。たとえば、「体育」は週3時間授業があるので、「3単位」の授業となります。

単位とは、各科目が一週間に実施される時間数のことをいいます。各科目等の1週間の授業時間が合計で31時間あるので、1年間で31単位分の授業を受けることになります。

3 単位修得について

単位修得とは、1年間きちんと授業を受けて履修の認定を受けた科目の成績が一定の基準を満たした場合、年度末の3月に行われる成績会議で認定されるものです。

本校では卒業までに81単位以上を修得しないと卒業できません。もし単位修得数が基準に満たない場合は原級留置（留年）となり、もう一度同じ学年をやり直さなければなりませんので、十分注意して下さい。

4 定期考査と成績（評点）について

皆さんの日頃の学習の成果を確かめるために設けられているのが定期考査です。実技教科（体育・芸術等）を除くほとんどの教科・科目について、年4回、定期考査（試験）を実施します。定期考査の点数を含め、関心・意欲・態度や知識・理解などの観点に基づいて総合的に評価を行い、皆さんの成績（評点）が出されます。

考査は絶対に欠席しないでください。欠席にやむをえない理由がある場合は追考査の受験を認めますが、その場合、最大でも得点の8割しか考査点として認められません（忌引きやインフルエンザ等の出席停止、大会参加等の公認と認められる欠席の場合は、追考査の得点を10割認めます）。また、考査や再指導において不正行為を行った場合には、当該科目の考査点が0点となるほか、相当の処分を受けることになります。

5 欠点と再指導について

40点未満の評点が欠点（赤点）です。欠点となった科目については、定期考査終了後、担当の先生へ願い出るにより、再指導を受けて欠点解消を目指すことになります。再指導の成果が良好であれば、評点は最高で40点までに挽回できます。再指導を受けなかった場合や、再指導の成果が良好でない場合は、評点は欠点のままになります。ただし、定期考査を実施しない科目（体育など）については、担当の先生の指示に従ってください。

6 評定について

年4回出される成績（評点）を平均した点数が学年成績（一年間の成績）となり、5段階の評定が決まります。評定は学年成績が80点以上の場合は「5」、70～79点は「4」、50～69点は「3」、40～49点は「2」、欠点である39点以下は「1」です。評定が「1」の場合はその科目の単位の修得は認められません。この評定は、皆さんが進学や就職するときに重要ですので、欠点とならないようにしてください。

7 技能審査成果の単位認定

本校では、下表に示す技能審査に合格した場合、進級・卒業のための単位として認定しています。学校で受検できるものもあるので、積極的に受けることを期待しています。

主なものには、次のものがあります。

技能審査の種類	単位を認められる教科・科目		認められる単位数
(公財) 日本英語検定協会主催 実用英語技能検定2級	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱのうち1科目	2単位
		コミュニケーション英語Ⅲ	2単位
(公財) 日本漢字能力検定協会主催 日本漢字能力検定2級	国語	国語総合	2単位
(財) 日本数学検定協会主催 数学検定準2級	数学	数学Ⅰ	1単位
(財) 日本数学検定協会主催 数学検定2級	数学	数学Ⅱ	2単位
(一財) 日本書写技能検定協会主催 硬筆書写技能検定2級	芸術	書道Ⅰ	1単位
(一財) 日本書写技能検定協会主催 毛筆書写技能検定2級	芸術	書道Ⅰ・書道Ⅱ・書道Ⅲのうち1科目	2単位

※この他に、全国高等学校家庭科食物調理技術検定1級は「フードデザイン」「家庭基礎」(2単位)、毛糸編物技術検定2級は「服飾手芸」(2単位)、レース編物技術検定2級は「服飾手芸」(2単位)、家庭調理技能検定2級は「フードデザイン」(2単位)、介護職員初任者研修は「家庭基礎」と「生活と福祉」のうち1科目(2単位)があります。

8 学校外学修の単位認定

「社会体験・ボランティア活動」

主体的・継続的に取り組む姿勢を評価するため、「社会体験・ボランティア活動」という学校設定科目を設けています。年度始めに活動届を提出し、本校の定める条件を満たした場合、2単位まで修得することができます。

ただし、これにより認定された単位は進級及び卒業のための単位には含まれません。

平成30年度入学生 教育課程表

単 位	【第1学年】	【第2学年】		【第3学年】		単 位							
				理系	文系								
1	国語総合 (5)	現代文B (2) 分割履修		現代文B (3) 分割履修		1							
2						2							
3		古典B (2) 分割履修		古典B (2) 分割履修		3							
4						4							
5						5							
6	世界史A (2)	X	日本史B (4)	地理B (4)	政治・経済 (3)		6						
7	倫理 (2)						7						
8	倫理 (2)						8						
9	数学I (3)	数学II (4)		体育 (2)		9							
10						10							
11				コミュニケーション英語III (4)		11							
12	数学A (2)	化学基礎 (2)				12							
13	数学A (2)					13							
14	生物基礎 (2)	Y	物理基礎 (2)	地学基礎 (2)	英語表現II (2) 分割履修		14						
15	生物基礎 (2)						15						
16	体育 (3)	体育 (2)		A	数学II (3)	地理B (3)	日本史B (3)	世界史B (5)	16				
17		保健(1)									17		
18		保健(1)	Z	数学B (2)	音楽II (2)	美術II (2)	書道II (2)	生活と福祉 (2)	音楽III (2)	美術III (2)	書道III (2)	生活と福祉 (2)	英語会話 (2)
19	音楽I (2)	美術I (2)		書道I (2)			19						
20	音楽I (2)	美術I (2)		書道I (2)			20						
21	コミュニケーション 英語I (3)	コミュニケーション英語II (4)		C	化学 (4)	数学II (2)	ビジネス 基礎 (2)	フード デザイン (2)	工芸I (2)	器楽 (2)	21		
22								実践国語 (2)	スポーツI (2)	情報処理 (2)	22		
23								化学基礎 (2)	地学基礎 (2)	子どもの 発達と保育 (2)	23		
24	英語表現I (2)	英語表現II (2) 分割履修		D	物理 (4)	生物 (4)	物理基礎 (2)		生物基礎 (2)	24			
25											25		
26	社会と情報 (2)	家庭基礎 (2)		E	物理 (4)	生物 (4)	物理基礎 (2)		生物基礎 (2)	26			
27											27		
28	総合的な学習の時間 (1)	総合的な学習の時間 (1)		F	物理 (4)	生物 (4)	物理基礎 (2)		生物基礎 (2)	28			
29											29		
30	総合的な学習の時間 (1)	総合的な学習の時間 (1)		総合的な学習の時間 (1)						30			
31	ホームルーム活動 (0)	ホームルーム活動 (0)		ホームルーム活動 (0)						31			

【学校外学修】による単位認定 ※ボランティア活動は各学年最大2単位、3年間で6単位までの修得が可能。インターンシップ活動は第2学年のみ1単位修得可能。

32	社会体験・ボランティア活動 (0), (1), (2)	社会体験・ボランティア活動 (0), (1), (2)	社会体験・ボランティア活動 (0), (1), (2)	32
33				33
34	*	社会体験・インターンシップ活動 (0), (1)	*	34

【第3学年】における単位数および科目選択について

	理系の単位数	文系の単位数
国語	5	5, 7
地歴公民	3	6, 8
数学	3, 5	0, 2
理科	8	2, 4
外国語	6	6, 8
体育	2	2, 4
芸術	0	0, 2, 4
家庭	0, 2	0, 2, 4, 6
商業	0	0, 2, 4

理系	科目選択
17 ~ 21	「数学III(5)」または「数学II(3)+生活と福祉(2)」を選択
26 ~ 29	物理(4)または生物(4)を選択

文系	科目選択
17 ~ 21	「世界史B(5)」または「地理B(3)または日本史B(3)+音楽III(2)、美術III(2)、書道III(2)、生活と福祉(2)、英語会話(2)から1科目」を選択
22 ~ 23	数学II(2)・ビジネス基礎(2)・フードデザイン(2)・工芸I(2)・器楽(2)から1科目選択
24 ~ 25	実践国語(2)・スポーツI(2)・情報処理(2)から1科目選択
26 ~ 27	化学基礎(2)・地学基礎(2)・子どもの発達と保育(2)から1科目選択
28 ~ 29	物理基礎(2)・生物基礎(2)から1科目選択

3年 現代文B

○ 学習のねらい

ものを考えるとき、私たちは「言葉」を用いて考えている。国語以外の教科を学習する上でも、「言葉」で理解し、「言葉」で考える。ものごとを正しく（誤解せずに）理解し、自分の考えを正確に伝える力を養うことは、どんな勉強にも必要なことである。

語彙を増やし、スムーズに文章を読んで内容を捉える力を身につけることと、そこから自分の考えを深め、言葉で表現する力を高めること、その2点を意識して取り組んでほしい。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

文章を読む力は、文章を読まなければ身につくことはない。練習しなければスポーツが上達しないのと同じである。だからできるだけ文章を読む機会を多くしよう。

「予習」は教科書を読み、難しい言葉は辞書で調べておくこと。さらに意味の分かりにくい表現をチェックする。予習プリントが課されている場合は、必ずしっかり取り組んで完成させておこう。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

「授業」では「予習」の内容を確認するとともに、指示語や段落相互の関係などを明確に理解し、授業時間内に教科書本文の内容を矛盾なく把握できるようにする。

3 授業後 ～ 復習 ～

現代文の場合、予習と授業の取り組みがしっかりできていれば「復習」の比重はそれほど重くなくても良い。

「発展」としては、たくさんの本を読むこと、新聞を読むこと、小論文や感想文を積極的に書いてみるなど、できることは限りがない。

○ 評価の方法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は80%を原則とする。

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学 習 状 態 の 観 察	発 表 等	提 出 物	レ ポ ー ト	小 テ ス ト	定 期 考 査
関心・意欲・態度	国語に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る。また、進んで表現したり伝え合おうとしている。	○	◎	○	◎		◎
話す・聞く能力	自分の考えや意見をまとめ、聞き手に伝えたり、相手の話す内容を的確に聞き取ったりしている。	○	◎				
書く能力	筋道を立てて適切な文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	○		○	◎		◎
読む能力	様々な文章を的確に読み取り、自分の考えを深め、発展させている。	○		○	◎		◎
知識・理解	語彙、漢字、文法などの国語の知識を身につけ、適切に使用している。	○	○		○	◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
国語	現代文B	3年 全クラス	3	改訂版 現代文B (第一学習社)	現代文B 学習課題集(第一学習社) 改訂版TOP2500(いっぴな書店) 新訂総合国語便覧(第一学習社)	105

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回考査範囲	○評論(一) 写真の持つ力 長倉 洋海	8	○論理的な文章の構成をよりの確に把握し、内容を理解することによって、読解した内容を自分の内面や社会の見方に反映させる。	○文章の論理展開を的確に把握し、一般的な常識とは異なる筆者の主張を理解する。 ○本文で論じられている内容について、自分なりの意見を持ち、今後の考え方に反映させる。	A・B・C A・B・C
		未来世代への責任 岩井 克人	8			
5	第二回考査範囲	○小説(一) 檸檬 梶井基次郎	11	○小説というメディアを通じて、その独特の虚構の世界を正確に読み取り、味わう力を養う。 ○青年期における主人公の心象風景や研ぎ澄まされた感覚に着目しながら、表現上の特色を把握するとともに、主人公の境遇や考え方、生き方に迫る。	○小説を精読することで読解力を高め、小説に対する関心を高める。 ○レトリックや構成に着目し、フィクションとしての小説表現の豊かさや可能性について考える。 ○主題の把握を通じて物事の多面的な価値を考えることで、今後の読書行為へと反映・発展させる。	A・B・C A・B・C A・B・C
6		考査	1			
7		第二回考査範囲	○評論(二) 言語が見せる世界 野矢 茂樹	10	○現代の評論を理解する上で基礎となるテーマ、今日的な問題を考えるにふさわしいテーマを持つ文章の読解を通して、物事の表層にある利便性や有効性ばかりでなく、その裏面について思考を巡らせ、視野を広げる。	○文章の構成を意識し、具体(例示)と抽象(意見)を読み分ける。 ○本文中の具体例(引用・比喩表現を含む)が意図するところを理解し、筆者の主張が何であるかを把握する。 ○現代社会を理解するうえでの言語観、生命観について見識を高める。
8	いのちのかたち 西谷 修		10			
9	第三回考査範囲	○詩 足と心 中桐 雅夫	5	○比喩の構造や視点、展開方法を考察し、詩の豊かさを学ぶとともに、詩から受け取れる人間観を考察する。	○現代詩のさまざまな技法、詩形、イメージ、レトリックの知識を身につける。 ○比喩の効果に着目し、詩の主題を考察する。	A・B・C A・B・C
10		考査	1			
10	第三回考査範囲	○小説(二) 舞姫 森 鷗外	15	○古典的な名作を読み、登場人物の心情の揺れに密着して小説を読む方法を学ぶ。 ○さまざまな問題を抱えていた明治の日本の中で主人公の生き方を考え、〈公〉と〈私〉の問題を考える。	○語句の意味を正確にとらえ、語彙を豊かにするとともに、文体・修辭などの表現から言語感覚を磨く。 ○主題・構成を確かめ、登場人物の心情を的確に捉える。	A・B・C A・B・C
11		○評論(三) 身体の個別性 浜田寿美男	7	○論理の展開を正しく把握できる力を養成し、また、その論理展開を通して明らかにされていく抽象的な概念を理解し、自分自身の問題として捉える。	○文章全体の論理構成を把握し、筆者の主張を理解する。 ○具体例によって示される事柄が、どのような抽象概念を説明しているのかを把握させる。 ○筆者の論の根幹を成す「身体」という概念を理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C
12	第四回考査範囲	考査	1			
1		○評論(四) リスク社会とは何か 大澤 真幸	15	○既習の読解方法を確認し、実践的に論理的な文章を読解する。 ○私たちが生きる「今」の社会が持つ問題点について考え、これから自分たちはどうすべきかを考察する。	○段落ごとの関係や全体の文章構造、同義表現や対比的表現、指示語などに注意して読解する技術に習熟する。 ○筆者の言う「リスク」、また、「リスク」が社会へ及ぼす影響について根拠に注意して把握する。	A・B・C A・B・C
		○小説(三) 幼なじみたち 遠藤 周作	12	○短編小説を素材として、文学的な文章を読解する技術や思考法を習熟する。 ○生きることの意味や価値を描いた小説を通して、自分の人生に対する複眼的な見方や考え方を養う。	○目に見えない人間の内面を、語り手がどのように小説内に取り込んでいるか、その表現技法や効果について理解する。 ○読解を通じて、「人間」や「生」の意味・意義について自分の考えを深める。	A・B・C A・B・C
2		考査	1			
3						

3年 古典B

○ 学習のねらい

当科目では、さまざまな古典文学を読解し鑑賞することによって、古典を読む能力を高めるとともに、古人の心を理解することをねらいとする。1年生の「国語総合」や、2年生の「古典B」に引き続き、肩肘張らずに古典の世界に浸りながら、さらに興味を持ち、生涯にわたって古典に親しむ態度を養うことを期待する。しかしながら、3年生であるからには、ただなんとなく読むのではなく、既習の文法事項や知識に基づいて、正確に読解できる力を身につけてもらいたい。また、古の文学に触れ、現代の私たちの生活や考え方と比較し、今とは異なる年代の人々の考えを尊重したり、異なる文化を理解しようとしたりする姿勢は、これからの国際化社会においても求められることである。ぜひ積極的に学習し、日本の伝統や文化に対する理解を深めてほしい。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

本文をノートに書き写し、わからない語句については事前に意味を調べておく。与えられた課題に取り組む。文法書を見ながらでも構わないので、助動詞の意味や活用形、形容詞の活用の種類なども予習しておくことが望ましい。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

音読を積極的に行う。説明をよく聞き、黒板に書かれたものをただ写すのみにとどまらず、重要だと思う事柄を書き留めるなど、主体的に授業に参加する姿勢が必須である。

3 授業後 ～ 復習 ～

言葉の「読み」や「意味」、「誰が、どうした」のか、助動詞の意味、活用などの文法事項など、授業中に確認したことを忘れないように復習することが大切である（※漢文も同様）。本文を見て、読めるか、訳せるか、自宅で取り組む。また、『学習課題ノート』の問題を解き、内容が理解できているか確認する。考査直前の詰め込みで乗り切れるものではなく、日々の積み重ねが各自に求められる。覚えるための努力を惜しまないこと。

○ 評価の方法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。

このうち、定期考査の割合は80%を原則とする。

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学 習	発 表	提 出	小	定 期
		状 態 の 観 察	等	物	テ ス ト	考 査
関心・意欲・態度	古典を進んで学習し、伝統的な言語文化について理解を深めようとしている。	○	◎	○		◎
読む能力	古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察したり、古典特有の表現を味わったりする態度を身につけている。	○	◎		◎	◎
知識・理解	古典を読むために必要な語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身につけている。	○		◎	◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
国語	古典B	3年 全クラス	2	改訂版 古典B (第一学習社)	古典B 学習課題集(第一学習社) 体系古典文法(数研出版)・新明説漢文(尚文出版) カラー版 新国語便覧(第一学習社) Key&Pointみるみる覚える古文単語300+敬語30(いっずな書店)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査範囲	○説話 発心集 「叡実、路頭の病者を憐れむ事」	4	説話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。	○叡実の行動とその背後にある思想や心情を読み取る。	A・B・C
5		○随筆(一) 枕草子 「ふと心劣りとかするものは」	6	随筆を読んで、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。	○仏教説話に関する知識や面白さを理解する。	A・B・C
6		○逸話 説苑「不顧後患」 新序「不若人有其宝」	8	本文に表れている古代中国人のものの見方・考え方を理解する。	○展開に即して内容を的確に捉え、作者のものの考え方や言語に対する感覚を理解する。 ○助詞・助動詞の知識を理解し、解釈にいかす。 ○漢文を正しく訓読し、登場人物の言動とその理由を読み取る。 ○作者が本文によって表そうとした内容について、正確に把握する。	A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
7	第二回 考査範囲	○物語(二) 大鏡 「菅原道真の左遷」	8	歴史物語を読んで、登場人物の行動や心情を読み味わう。	○政治的な事件や人物にまつわるエピソードを通じて、歴史物語の面白さを理解する。	A・B・C
8		○項羽と劉邦 史記「四面楚歌」	10	中国の歴史的背景をふまえて内容を把握し、登場人物の行動や心情、関係性を読み取る。	○敬語の基本的な意味・用法を理解し、解釈にいかす。	A・B・C
9		考査	1		○英雄の悲壮な最期を読み取り、その心情や人間の運命について考える。 ○語句の深い意味や句形の知識を理解し、本文を正確に解釈する。	A・B・C A・B・C
10	第三回 考査範囲	○日記 蜻蛉日記 「うつろひたる菊」	8	日記文学を読んでその歴史的意義を理解し、作者の思想や感情を読み取る。	○作者の体験や心情を理解するとともに、作者の人生観について考える。	A・B・C
11		○明代の文章 誠意伯文集「売柑者言」	6	明代の知識人の文章を読むことで、自己の思考を深める。	○心情表現の中心となる和歌の修辞技巧や贈答について理解する。	A・B・C A・B・C
	考査		1			
12	第四回 考査範囲	○物語(一) 源氏物語 「須磨の秋」	8	長編物語の構成や展開を把握し、登場人物の心情や人間関係の諸相を読み取る。	○情景と心情が一体となった描写を読み味わうことで、源氏の挫折や苦悩を理解する。	A・B・C
1		○三国志の世界 三国志演義 「張飛、大いに長坂橋を鬧がす」	8	三国時代の歴史物語に触れ、話の展開や登場人物の心情を読み味わう。	○和歌の表現技巧をふまえて、物語における和歌の役割について考える。	A・B・C
2		考査	1		○登場人物の心情表現や漢文独特の誇張表現を理解し、あらすじを正確に把握する。 ○時代背景をや英雄たちの人物像を把握し、物語の面白さを理解する。	A・B・C A・B・C
3	考査		1			

3年 実践国語（選択者）

○ 学習のねらい

当科目では、「小説」や「評論」といった文章の種類に応じて、文章読解のポイントとスキルをおさえながら、基礎的な易しい問題からステップアップしていくことで、現代文を読むための力を身につけることをねらいとする。また、明治後期以降の文学史的に重要な小説家の作品も多く取り上げ、作品の成立した時代背景や歴史的な事項についても学習する。それらを意識しながら読むことで正確な読解力の養成を目指す。そのほか、語彙力や漢字、文法、実践的な文章表現についても知識を深めていく。学習を通じて、入試にも対応できる力を伸ばすことを視野に入れながら、総合的な国語力を高めること（＝国語について持っている自らの知識に基づき、実際に読解・表現すること）を期待する。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

事前に教材を読み、授業で学習するところを確認しておく。与えられた課題に取り組む。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

読解には集中力が不可欠である。集中して問題に取り組み、間違えた場合には、なぜ間違えたのか必ず振り返る。漢字の読み、書き、意味がわからない語句があればチェックをし、その場で覚える気持ちで臨むこと。

3 授業後 ～ 復習 ～

暗記事項については、考査前の学習のみならず、最低限1週間に1度は振り返る機会を持つ。読解問題については、何度も解くなど、力を身につけるための努力を怠らないこと。

○ 評価の方法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。

このうち、定期考査の割合は80%を原則とする。

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学 習 状 況 の 観 察	発 表 等	提 出 物	小 テ ス ト	定 期 考 査
関心・意欲・態度	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図っている。進んで表現したり伝え合おうとしている。	○	◎	◎		
話す・聞く能力	自分の考えや意見をまとめ、聞き手に伝わるように話したり、相手の話す内容を的確に聞きとったりしている。	○	◎			
書く能力	場面や目的に応じ、筋道を立てて適切な文章を書き、自分の考えを深め発展させている。	○		◎		◎
読む能力	目的に応じて、さまざまな文章を的確に読み取り、自分の考えを深め、発展させている。	○		◎	◎	◎
知識・理解	語彙、語句、漢字、文法などの実践的な国語の知識を身につけ活用している。	○			◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
国語	実践国語	3年 選択者	2	学校作成教材 (宮城広瀬高校)	論読評論文(浜島書店) 国語力を高める教養講座文芸25選(第一学習社)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査範囲	評論(一) 情報・芸術	8	・評論読解の基本 ・問題意識をつかむ ・筆者の主張を読み取りまとめる。	○意見をわかりやすく伝えるための工夫を見つけるとともに、筆者の抱く問題意識を念頭に置くことで、精確に主張を読み取っている。内容を規定の文字数にまとめられる。	A・B・C
5		小説(一) 夏目漱石～川端康成	8	・小説読解の基本 ・人物像を整理する ・掴んだ内容を相手に伝える	○必要な情報を集め、登場人物の心情を読み取っている。また、登場人物がどのような人物か把握し、とる行動、抱く心情を理解し、説明できる。	A・B・C
		語彙力養成(一)	4	・同音異義語、同訓異義語、四字熟語	○知識を習得している。	A・B・C
	考査		1			
7	第二回 考査範囲	評論(二) 科学・言語	8	・指示語 ・キーワード・センテンス ・対比・くり返し	○指示語が指し示す内容をおさえ、文脈を理解するとともに、比べられている事柄を把握し、論の展開を理解している。また、内容を規定の文字数でまとめられる。	A・B・C
8		小説(二) 横光利一～三島由紀夫	8	・情景描写を理解し説明する ・比喩表現	○情景描写や比喩表現に着目し、登場人物の心情を精確に読み取り説明できる。	A・B・C
9		語彙力養成(二)	4	・類義語、対義語	○知識を習得している。	A・B・C
	考査		1			
10	第三回 考査範囲	評論(三) 文化・社会	6	・抽象と具体の関係 ・比喩表現 ・理由説明	○具体例と抽象的語句の関係を見抜き、比喩表現に注意しながら筆者の意図を的確にとらえている。 ○「なぜ?」「どうして?」という疑問を持ちながら読み進め、筆者の理由・根拠を読み取っている。	A・B・C
11		小説(三) 井伏鱒二～黒井千次	6	・表現の特徴	○表現の特徴に注意して読むことにより、本文の展開を把握し、小説をより深く味わっている。	A・B・C
		語彙力養成(三)	2	・ことわざ、慣用句	○知識を習得している。	A・B・C
	考査		1			
12	第四回 考査範囲	評論(四) 身体・思想	6	・表現の特徴をまとめる	○形式段落ごとの関係をつかんだり、意味段落の役割を意識したりすることで、論の展開や表現に関心を持って読み進めている。	A・B・C
1		小説(四) 伊藤整～前田愛	6	・心情や情景表現をまとめる	○既習の知識や技能を生かし、近代を代表する小説を読解する。	A・B・C
2						
	考査		1			
3						

※1, 2学年については、3月の欄に「新年度の準備」等3月授業に関してご記入下さい。

3年政治・経済（全クラス）

○ 学習のねらい

- 1 民主主義の本質やしくみなどについて理論的・体系的に理解を深めます。
- 2 現代の政治，経済，国際関係などについて客観的に把握し，理解を深めます。
- 3 1・2の理解を踏まえて現代の諸課題について主体的に考察することを通して，諸課題に対する自己の見解を確立するとともに，公正な判断力を育みます。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ① 中学社会の公民的分野で学んでいる基本的な政治，経済，法律等の知識の上に，高校政治・経済では個別の事例等を取り上げ，授業理解を深めていきます。
- ② 進学・就職試験でも，一般常識，時事問題，面接，小論文等の分野で「政治・経済」の教材は大いに活用できます。日頃から目を通し，辞書的に活用しましょう。
- ③ 新聞やニュース，インターネット等の情報に目を通す習慣をつけ，インプットに心がけましょう。授業ではインプットした情報を関連づけて考え，アウトプットの機会にしましょう。積極的な授業への取り組みや発言は高く評価します。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ① ベル着を守り，休み時間に準備を完了しておくことは当然です。また，板書事項をノートに書くだけでなくメモをとりましょう。
- ② 授業は具体的事例を中心に展開します。発問やディスカッションの機会も設けるので，自分の考えや意見をしっかり述べましょう。また，疑問点は放置せずに質問して解消しましょう。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ① 問題集などを使用して，学んだ内容を振り返っておきましょう。
- ② 進学の受験科目として検討している人は，問題集等を使用しながら学習を進めましょう。

○ 評価の方法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行います。定期考査の割合は80%を原則とします。

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

観 点	評価項目	学 習	発 表	提 出	定 期
		状 態	発 問	物	考 査
	身に付けたい学力を 観点別に整理し，以下に示します。	の 観	評 価		
関心 ・意欲 ・態度	現代の政治・経済に関心を持ち，それらを理論的・体系的に探求しようとしている。また，国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現に向けて参加，協力する態度が身についている。	○	◎	○	◎
思考 ・判断	現代の諸課題について主体的に考察しようとしている。また，社会の変化や様々な立場・考え方があることを理解し，公正に判断できる。	○	○		◎
資料活用 の技能 ・表現	現代の政治，経済，社会，国際関係などにかかわる基本的な問題や重要な課題にかかわる事柄に関する諸資料をさまざまなメディアから収集し，有用な情報を適切に選択・活用・表現することができる。	◎	◎	◎	
知識・理解	現代の政治，経済，社会，国際関係にかかわる基本的な事項や課題について体系的，総合的に理解し，その知識を身につけている。	○	◎		◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
公民	政治・経済	全クラス	3	『高校政治・経済 新訂版』(実教出版)	『政治・経済資料2020』(東京法令出版) 『ステイノート政治・経済 改訂版』 (数研出版)	105

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった					
4	第一回 考查範囲	第1編 現代の政治 1章 民主政治の基本原則 2章 日本国憲法の基本的性格 3章 日本の政治機構 1立法 2行政 3司法 4地方自治 4章 現代日本の政治 1戦後政治の歩み 2選挙制度と 政党 3政治参加と世論	30	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の基本的な原理について学びます。 ・日本国憲法の制定過程や三大原理である国民主権、基本的人権の保障、平和主義について歴史的な経緯を踏まえながら学びます。 ・国会、内閣、裁判所の三権のはたらきについて前節の理念との関係を踏まえて学びます。 ・地方自治の制度について、近年の市町村合併や住民投票などの動きに注意しながら、具体的な事例に即して学びます。 ・政党政治の変遷を最新の事例に即して学びます。 ・最新の選挙制度を民主政治の理念との関係を踏まえて学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の成立を歴史的観点から把握できる。 ・民主政治の基本原則が理解できる。 ・権力が抑制と均衡のバランスの中にあることを理解し、問題点に関して考察できる。 ・地方の課題を理解し、解決策を考察できる。 ・各事例の特徴と問題点について理解できる。 ・具体的な事例を把握できる。 ・18歳選挙権と成人年齢をふまえて、自分のこととして理解し、考察できる。 	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C					
5							6	6	6	6	6
6							6	6	6	6	6
7	第二回 考查範囲	5章 現代の国際政治 1国際政治の特質と国際法 2国際連合と国際協力 3現代国際政治の動向 4核兵器と軍縮 5国際紛争と難民 6国際政治と日本	29	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の国際政治の変遷に触れながら、国際法や国際連合の組織としての機能などについて学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際政治の動向や特徴について、課題を把握し、考えをまとめることができる。 ・国際政治に興味・関心を持つことができた。 	A・B・C A・B・C					
8							8	8	8	8	
9							9	9	9	9	
10	第三回 考查範囲	第2編 現代の経済 1章 経済社会の変容 2章 現代経済のしくみ 1市場機構 2現代の企業 3国民所得と経済成長 4金融のしくみ 5財政のしくみと機能 3章 現代経済と福祉の向上 1戦後復興と経済成長 2経済停滞と再生	24	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の資本主義経済がどのような歴史的経緯を経て成立しているのかを理解するとともに、資本主義経済の特徴について学びます。 ・市場の機能やその特性について学びます。 ・経済主体間の関連などに注意し、企業活動はどのようなものであるかについて考察します。 ・金融の機能やその働きについて学びます。 ・税の意義や財政の基本的な役割を学んだ上で財政改革の必要性について考えます。 ・戦後の日本経済の歩みを振り返りながら、「日本の奇跡」についてその要因を学習します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資本主義経済の原理が理解できた。 ・社会主義経済体制の特色を理解できた。 ・中国経済について理解できた。 ・市場メカニズムやその限界など、それらの特徴について理解できる。 ・金融の基本的なしくみが理解できた。 ・金融の自由化など近年の動きが理解できた。 ・消費税を始めとした税金が何に使われているのか理解すると共に、基本的なメカニズムを理解できる。 ・現在、日本が直面している経済の諸課題について、その実態などを理解し、その問題点などについても考察できる。 	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C					
11							11	11	11	11	
12							12	12	12	12	
1	第四回 考查範囲	4章 世界経済と日本 1商品・資本の流れと国際収支 2国際経済体制の変化 3金融のグローバル化と世界金融危機 4地域経済統合と新興国の台頭 5経済協力の人間開発の課題 第3編 現代社会の諸課題 ・人種・民族問題 ・これからの社会保障のあり方	18	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易の仕組みや統計、課題を学びます。 ・外国為替等のしくみを学び、経済のグローバル化について考えます。 ・多様性を許容する社会について学びます。 ・社会保障の制度や問題点について学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の貿易について理解できた。 ・自由貿易と経済のグローバル化について考察できる。 ・真に平等な社会の形成について考察できた。 ・社会保障制度と課題について理解できた。 	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C					
2							2	2	2	2	

3年 世界史B

○ 学習のねらい

世界史Bは、世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養成することを目標としている。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

次の授業の単元については必ず教科書や資料集の該当部分やワークブックに目を通しておく。授業では必ず教科書、資料集、ワーク等を準備し、忘れ物がないように心掛けること。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

板書された事項についてはもちろんのこと、口頭で説明されたなかで重要な事項についてもメモを取り、復習の際に役立てるようにすること。小テストやワークブックなどの取り組みについても授業態度として評価するので、確実な取り組みを求める。

3 授業後 ～ 復習 ～

ノート・プリント等は常に整理し、定期考査前にすぐにテスト勉強ができるように準備しておくこと。教科書、資料集やプリント類はくり返し復習し、分からないことがあれば必ず教科担当に質問すること。

○ 評価の方法

評価は、定期考査分（7～8割）と提出物や学習状況（2～3割）とを総合して評価する。具体的な評価の観点とは以下のとおり。

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学 習	発 表	提 出	小	定 期
		状 態 の 観 察	等	物	テ ス ト	考 査
関心・意欲・態度	世界史上の事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとしている。	○	◎	◎	◎	○
思考・判断・表現	世界史上の事象から課題を見出し、我が国及び世界の形成の歴史的過程について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現している。	○	◎	◎		◎
資料活用の技能	世界史上の事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	○	◎	◎		
知識・理解	我が国及び世界の形成の歴史的過程についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。	○			◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
地理歴史	世界史B	3年 選択	5	詳説世界史B(山川出版社)	最新世界史図説タペストリー(帝国書院) 詳説世界史整理ノート改訂版(山川出版社)	175

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査 範囲	世界史への扉 第Ⅰ部 1章オリエントと地中海世界	43	・砂糖から見た世界の歴史	・事例より、日常生活から世界史を読み取ることが できることを理解する。	A・B・C
5		2章アジア・アメリカの古代文明 3章内陸アジア世界・ 東アジア世界の形成		・古代オリエント、ギリシア、ローマ世界	・西アジア、地中海世界の古代文明の基礎的知識 とこれらの世界の形成過程を理解する。	A・B・C
6		第Ⅱ部 4章イスラーム世界の 形成と発展		・インド、東南アジア、中国、 南北アメリカ文明 ・東アジア、内陸アジア世界	・南アジア、東南アジア世界の古代文明の基礎的 知識とこれらの世界の形成過程を理解する。	A・B・C
6	考査		1			
7	第二回 考査 範囲	5章ヨーロッパ世界の形成と発展	43	・ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、 西ヨーロッパ封建社会の成立と変動	・キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程 を理解する。	A・B・C
8		6章内陸アジア世界・ 東アジア世界の展開		・内陸アジア諸民族と中国王朝との興亡	・内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に 果たした役割を理解する。	A・B・C
9		第Ⅲ部 7章アジア諸地域の繁栄 8章近世ヨーロッパ世界の形成		・西アジア、南アジアのイスラーム諸帝国 明、清帝国と東アジア世界	・16～18世紀のアジア諸地域の特質と、その中 での日本の位置づけを理解する。	A・B・C
9	考査		1			
10	第三回 考査 範囲	9章近世ヨーロッパ世界の展開	43	・重商主義、啓蒙専制主義、ヨーロッパ 諸国の海外進出	・ヨーロッパ諸国の世界各地への進出と大西洋 世界の形成について理解する。	A・B・C
11		10章近代ヨーロッパ・ アメリカ世界の成立 11章欧米における 近代国民国家の発展 12章アジア諸地域の動揺		・産業革命、アメリカ独立革命、 フランス革命 ・ウィーン体制と民族主義、 南北アメリカの発展	・産業革命と資本主義の萌芽、市民革命と 近代市民社会の成立について理解する。	A・B・C
11	考査		1	・ヨーロッパ諸国のアジア進出と オスマン、ムガル、清帝国	・ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の 動揺と改革について理解する。	A・B・C
12	第四回 考査 範囲	第Ⅳ部 13章帝国主義と アジアの民族運動	42	・帝国主義と列強の世界分割、 アジア諸国の改革と民族運動	・帝国主義諸国の抗争とアジア、アフリカの対応 等、20世紀初期までの世界の動向を理解する。	A・B・C
1		14章二つの世界大戦		・二つの世界大戦、ロシア革命、 ファシズム、世界恐慌と資本主義の変容	・二つの大戦とその間に生じた出来事から、20世紀 前半の世界の動向について理解する。	A・B・C
2		15章冷戦と第三世界の独立		・冷戦の成立と展開、アジア、アフリカ 諸国の独立と多極化	・冷戦の展開、多極化等の1960年代までの時代の 特質を理解する。	A・B・C
3	考査	16章現在の世界	1	・経済のグローバル化、冷戦の終結、 地域統合の進展と地域紛争	・冷戦終結後今日までの時代の特質を理解する。	A・B・C
3		主題学習 資料を活用して 探求する地球世界の課題		・世界の食糧危機	・歴史的観点を踏まえて資料活用し、その成果 を表現できる。	A・B・C

3年 日本史B (文系)

○ 学習のねらい

日本の歴史の展開を世界史的な視野に立って総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせると共に、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と、平和で民主的な国際社会の実現に主体的に努めることの出来る日本人としての資質を養う。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

授業開始前に、ノート・教科書・資料集、必要なものを全て準備着席し、前回の授業の内容を確認する。欠席した場合は、その分のノートを級友から見せてもらい必ず筆写しておくこと。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

真剣な気持ちで授業に向かうことが何より大切である。ノートは、板書事項だけではなく先生の話や自分で気づいたことなども積極的に記入しておくことが大事である。
疑問に思うことがあれば、積極的に質問しよう。

3 授業後 ～ 復習 ～

歴史は時代が新しくなるにつれて学習内容が細かくなっていくので、2年次よりも難しいと感じることが多い。「流れ」「因果関係」「他国との関係」を整理しながら教科書やノートを見直そう。

○ 評価の方法

・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は80%を原則とする

観 点	評価項目	学 習 状 態 の 観 察	発 表 等	提 出 物	定 期 考 査
関心・意欲・態度	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	◎	◎	○	◎
思考・判断・表現	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できる。	◎	◎		◎
観察・実験の技能	諸資料の収集と有用な情報を選択して活用でき、歴史的事象の追求と、考察の過程と結果を適切に表現する。	◎	○	○	
知識・理解	近現代史を中心とする我が国の歴史について基本的な事柄を世界史的な視野に立ち国際環境などと関連づけて理解し、その知識を身につけている。	◎	○		◎

※記号の凡例 (◎：特に重視する, ○：重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
地理歴史	日本史B	3年 選択	3	高校日本史 改訂版 (山川出版社)	図説日本史通覧 (帝国書院)	105

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	近代国家の成立	26	ペリーの来航から開国後の混乱 幕府の動揺から尊王攘夷運動 倒幕運動	明治維新の前提として、ペリー来航の背景や開国の影響を理解する。大政奉還までの経過をたどりながら、幕府滅亡の原因を考える。	A・B・C
		1 開国と幕府の滅亡				
		2 明治維新				
5	第一回 考查範囲	3 立憲国家の成立	26	新政府の成立と廃藩置県 四民平等と地租改正 殖産興業と文明開花	諸改革や領土の確定を通じて、中央集権国家が形成されていく時期として、明治前半を理解する。	A・B・C A・B・C
		3 立憲国家の成立				
6	第一回 考查範囲	3 立憲国家の成立	26	松方財政と民権運動の激化 明治憲法の制定と初期議会	政府と民権派のせめぎ合いを通して立憲国家が形成されていく過程を理解する。立憲国家初期の議会政治の様々な問題点を理解する。	A・B・C
		3 立憲国家の成立				
6	考查		1			点
7	第二回 考查範囲	近代国家の成立	26	条約改正 朝鮮をめぐる対立 日清戦争 日露戦争	明治の日本のアジア諸国や欧米列強との関係に注意し、日本のアジア観を考察させながら、条約改正、日清・日露戦争の経緯を理解する。	A・B・C
		日本の大陸政策と近代化				
		4 大陸政策の展開				
8	第二回 考查範囲	5 近代国家の形成	26	産業革命と財閥の成立 明治期の文化	日本が資本主義国家の基礎を確立し、帝国主義列強の仲間入りをした背景とそれに伴う明治期の文化の形成について理解する。	A・B・C
		6 近代文化				
9	第二回 考查範囲	二つの世界大戦とアジア	26	大正政変 第一次世界大戦と国際秩序の再編成	第一次世界大戦前後の対外政策の推移を理解する。	A・B・C
		1 第一次世界大戦と日本				
9	考查		1			点
10	第三回 考查範囲	二つの世界大戦とアジア	25	政党内閣の成立	大戦後の国際情勢の変化とそれに伴う国内での政党政治の成立について理解する。	A・B・C
		2 政党政治と大衆文化				
		3 恐慌の時代				
11	第三回 考查範囲	4 軍部の台頭	25	金融恐慌・世界恐慌 山東出兵、昭和恐慌 統帥権干犯問題	不況・震災が日本の大陸進出の動きを強め、世界恐慌の発生が右翼・軍部の台頭を許し、政党政治の崩壊へ動き出したことを理解する。	A・B・C
		5 第二次世界大戦				
12	第四回 考查範囲	満州事変と国連脱退 二・二六事件	25	三国防共協定と日中戦争 新体制運動と国家総動員法 三国同盟と太平洋戦争	軍部の独走による満州事変の発生と国連脱退と二・二六事件と軍部の政治介入によって戦争へ突き進む日本の動きを理解する。	A・B・C
		5 第二次世界大戦				
12	考查		1			点
1	第四回 考查範囲	現代の世界と日本	24	GHQによる占領と東京裁判 五大改革と新憲法の制定 朝鮮戦争と主権の回復 東西冷戦と55年体制の成立 高度経済成長	対日占領政策と諸改革を、国際関係の推移とともに着目するとともに、資本主義国側として主権の回復する過程を理解する。 冷戦下における主権回復後の55年体制の成立による政治の安定化と高度経済成長について理解する。	A・B・C
		1 占領下の改革と主権の回復				
		2 55年体制と高度経済成長				
2	第四回 考查範囲	3 現代の情勢	24	多極化する国際社会 冷戦終結と55年体制の終焉	1970年以降の世界情勢と日本、冷戦終結後の世界における日本の動きを理解する。	A・B・C
		3 現代の情勢				
3	考查		1			点

3年 地理B

○ 学習のねらい

3学年で学ぶ地理Bでは、2学年地理Bで養った現代社会の地理的事象を系統地理的側面と地誌的側面の両面から考察し、世界の諸問題に焦点を当てて、国際社会で主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うことを目的とする。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

上記に目標を達成するために2年次の学習内容の保持に努める。その上で授業内に提示される現代社会の地理的諸問題について考察できるよう主体的に授業に臨む。また、人口や面積のような基本的データは理解しているものとして授業を展開していくので、事前に提示される授業展開案にそって各自準備を進めておくこと。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

板書された事項の整理は各自が行う。同時に発表や地理的事象の構造的分析を主として行うので数値データと地理的空間把握は常に付随して問われるものと準備すること。例えば、環境問題で熱帯林の破壊を取り扱う場合、熱帯の位置やその定義（ケッペンの気候区分）、熱帯林の名称や各国の経済状況による木材の用途の違いなどは常に問われるか、理解済みとして展開していく。

その上で発表などでは、引用データや出典元、参考文献などが提示できるよう高等教育の場でも通用する常識を求める。

3 授業後 ～ 復習 ～

ノート・プリントは常に自分の手法で整理する。定期考査対策は当然だが、社会的事象にすぐにコミットできるよう学習しておかなければ公教育としての意味はなさない。教科書や資料集は目次なしで使いこなせるものとし、データや出典元の明示も地理的技法の1つとして評価する。

○ 評価の方法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う、定期考査の割合は80%を原則とする。

【 】は表中表現

- 出席と課題提出（出席していても内容がないと認められれば欠席扱いとする）【学習状態の観察】
- 単元ごとの確認テスト【提出物・作業，小テスト】
- センター2次に準じた授業内での記述説明課題における用語の使い方と地理的事象の理解度【発表】
- ペアワークでのノート交換での他者評価【発表・小テスト】

※評価の観点は以下のとおり。

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学 習	レ ポ	提 出	小	定 期
		状 態	ー ト	物 ・	テ	考 査
		の 観	・ 発	作 業	ス	
		察	表 等	な ど	ト	
関心・意欲・態度	現代の地理的な事物・事象に関心を持ち、諸課題を自己の興味や課題とつなげて学術的に探究している。	○	◎	○		◎
思考・判断・表現	学習活動において論述など通し、自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察や探究を行い、その過程や結果を適切に表現している。	○	◎	◎		◎
技能	学習教材を活用し、収集した資料の中から、自己の問題として探究する学習に役立つ情報を適切に選択し、提示した上で、自己の資料として活用している。	○	◎	◎		
知識・理解	地理的事物・現象に対する、基本的な理解や原因・結果を理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	○			◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する，△：あまり重視しない）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
地理歴史	地理B	3年 選択	3	新詳地理B 新詳高等地図 (帝国書院)	最新地理図表 GEO (第一学習社)	105

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査 範囲	テーマ学習 日本の自然災害と防災	17	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地形や気候の特徴による自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察する。 地球温暖化や森林破壊、砂漠化の事例を考察するとともに、日本の環境問題の対策を考察する。 世界の食料需給の地域的な偏りを大観し、発展途上国、先進国、日本についての事例を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の自然災害が世界の中でも特徴的であることの考察を基に、防災のあり方に対する課題意識を高めることができたか。 世界と日本の環境問題の概要と対策について系統地理的視点や考察方法を理解し、その知識を身につけることができたか。 世界の食料問題の状況とその成因を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に、多面的・多角的に考察できたか。 	A・B・C
5		テーマ学習 世界と日本の環境問題				A・B・C
6		テーマ学習 食料問題				A・B・C
6	考査		1			
7	第二回 考査 範囲	テーマ学習 資源・エネルギー問題	16	<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の資源・エネルギー問題を大観し、世界や日本の資源をめぐる問題を考察する。 世界や日本の観光業の特徴を第3次産業の産業構造の変化から考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源やエネルギーの不均衡や石油情勢、エネルギーのあり方について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解する。 観光業の動向に関する統計などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、観光業の動向を図表にまとめることができたか。 	A・B・C
8		テーマ学習 世界と日本の観光業				A・B・C
9		考査				1
10	第三回 考査 範囲	テーマ学習 世界の人口問題	16	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。 世界の都市・居住問題を大観し、その要因と発生のしくみを、発展途上国、先進国、日本の事例で考察するとともに、問題の解決には何が必要かを考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人口問題の事例に関する考察を基に、人口問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追及しようとしたか。 都市・居住問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追及し、捉えようとしたか。 	A・B・C
11		テーマ学習 都市・居住問題				A・B・C
12	第四回 考査 範囲	テーマ学習 民族・領土問題	17	<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の民族・領土問題を大観し、日本の民族や領土、世界各地の民族の共生についての課題を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の民族・領土問題について、言語・宗教をめぐる問題、領土をめぐる問題に関する考察を基に、現代世界の民族・領土問題に対する関心と問題意識を高めることができたか。 	A・B・C
1						
2						
3	考査		1			

3年 数学Ⅲ

○ 学習の目的とねらい

2次曲線と複素数平面，さらには極限，微分法及び積分法についての理解を深め，知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を育む。

○ 学習方法と授業の注意点

1・2年次に学習する「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」をしっかり復習しておくこと。「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」の基礎的な知識は身に付いているという前提で授業を進めます。

また，進度により学習内容を変更する場合があります。

1. 授業の前 ～ 予習 ～

予習とは，「分かるところと分からないところをチェックする」ことが基本です。部活動などで疲れてしまって，仮に一つの科目にわずかな時間しか予習時間がとれない場合でも，次の授業で進むと予想される箇所全体に目を通しておくことは最低限しておくべきです。

予習の段階で教科書の練習問題をすべて解くまでのことは求めません。その代わりに，前回学んだことをしっかり思い出し，次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

2. 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

何が分かって何が分からないのかの区別をしっかりすること。理解していなくても先生の説明通り問題を解いて正解することもあります。真の実力とはいえません。理解できた，という実感が大切です。

ノートのとり方も工夫が必要です。とりあえず「板書事項だけをノートに写しておく」人もいますが，それだけでは考査前に役に立たないことが多いです。先生の発言で大事なことはしっかりメモし，後から見ても十分分かるノート作りをしましょう。

3. 授業後 ～ 復習 ～

授業で分からなかったところをそのままにしておくと次の授業も当然分かりません。空いている時間を見つけて先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。

数多く解くことも大事ですが質も重視したいです。進学を目指す者は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は，のちに大きな力となります。

○ 評価の方法（考査のポイント・注意事項）

考査は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものです。教科書の内容を十分理解した上で，問題集や課題プリント等にも意欲的に取り組み，実力を確かなものにして臨んで下さい。定期考査に迫られ，その場限りの学習しかしてこなかったという人は計画立てて実行する習慣も養いましょう。

定期考査の割合は70%以上を原則として，下記の観点に基づいて100点満点で総合的に評価を行います。

※評価の観点は以下のとおり。

観 点	評価項目 身に付けたい 学力を観点別に整理し，以下に示します。	の学 観習 察状 況	提 出 物	小 テ ス ト	定 期 考 査
数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	○	○	○	◎
数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	○	△	◎	◎
知識・理解	基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。	○	△	◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する，△：あまり重視しない）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
数学	数学Ⅲ	3年 理系 選択	5	最新 数学Ⅲ (数研出版)	ベーシックスタイル数学演習Ⅲ (数研出版)	175

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査範囲	第1章 複素数平面	22	<ul style="list-style-type: none"> 複素平面について理解し、複素数を極形式を用いて表す ド・モアブルの定理について理解し、n乗根の求め方、図形的な意味を理解する 複素平面上での円、直線などの性質、図形的な意味を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 複素平面について理解し、複素数を極形式を用いて表すことができる ド・モアブルの定理について理解し、n乗根の求め方、図形的な意味を理解している 複素平面上での円、直線などの性質、図形的な意味を理解している 	A・B・C A・B・C A・B・C
5		第2章 式と曲線	26	<ul style="list-style-type: none"> 放物線・楕円・双曲線の幾何学的な定義を理解する 2次曲線のグラフ、標準形を求める 図形を媒介変数を用いて表す 極座標について、理解し、円や直線の極方程式を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 放物線・楕円・双曲線の幾何学的な定義を理解できる 2次曲線のグラフ、標準形を求めることができる 図形を媒介変数を用いて表すことができる 極座標について、理解し、円や直線の極方程式を理解している 	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
6		考査		1		
7	第二回 考査範囲	第3章 関数	10	<ul style="list-style-type: none"> 分数関数、無理関数についてのグラフの性質を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 分数関数、無理関数についてのグラフの性質を理解している 	A・B・C
8		第4章 極限 第1節 数列の極限	14	<ul style="list-style-type: none"> 数列の収束発散の意味を理解し、数列の極限值を求める 無限級数の意味を理解し、その収束発散について調べ、和を求める 	<ul style="list-style-type: none"> 数列の収束発散の意味を理解し、数列の極限值を求めることができる 無限級数の意味を理解し、その収束発散について調べ、和を求めることができる 	A・B・C A・B・C
9		第2節 関数の極限	14	<ul style="list-style-type: none"> 関数の極限值、連続性について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 関数の極限值、連続性について理解している 	A・B・C
9	第三回 考査範囲	第5章 微分法	11	<ul style="list-style-type: none"> 導関数の定義を再確認し、関数の積・商、合成関数、逆関数、三角関数、指数関数、対数関数等の導関数を求める 	<ul style="list-style-type: none"> 関数の積・商、合成関数、逆関数、三角関数、指数関数、対数関数等の導関数を求めることができる 	A・B・C
10		第5章 微分法	6	<ul style="list-style-type: none"> n次導関数、媒介変数で表された関数の導関数を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> n次導関数、媒介変数で表された関数の導関数を求めることができる 	A・B・C
11		第6章 微分法の応用	30	<ul style="list-style-type: none"> 関数の増減、極大・極小についての関係を再確認する。その上で、第2次導関数を考えることで、関数の増減とで凹凸、変曲点について理解する 最大値・最小値や方程式・不等式との関連を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 関数の増減、極大・極小についての関係を再確認する。その上で、第2次導関数を考えることで、関数の増減とで凹凸、変曲点について理解している 最大値・最小値や方程式・不等式との関連について理解している 	A・B・C A・B・C
11	第四回 考査範囲	第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分	12	<ul style="list-style-type: none"> 不定積分の意味を確認し、置換積分法についての理解を深める 不定積分の意味を確認し、部分積分法およびいろいろな関数における不定積分について理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 不定積分の意味を確認し、置換積分法や部分積分法について理解している 不定積分の意味を確認し、部分積分法およびいろいろな不定積分について理解している 	A・B・C A・B・C
12		第2節 定積分	12	<ul style="list-style-type: none"> 定積分の意味を確認し、置換積分法や部分積分法についての理解を深める 定積分を用いて、面積を求める 	<ul style="list-style-type: none"> 定積分の意味を確認し、置換積分法や部分積分法についての理解している 定積分を用いて、面積を求めることができる 	A・B・C A・B・C
1		第3節 積分法の応用	14	<ul style="list-style-type: none"> 定積分を用いて、非回転体、回転体の体積を求める 	<ul style="list-style-type: none"> 定積分を用いて、非回転体、回転体の体積を求めることができる 	A・B・C
2	考査		1			

3年 数学Ⅱ

○ 学習の目的とねらい

3年生の数学Ⅱでは1・2年次に学習した内容について教科書より深い内容の問題まで取り組み、数学の本質とは何かを身につけることを目標として学習していきます。

また、数学的活動を通して創造性の基礎を身につけるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、今後の社会生活で活用する力を育てます。

○ 学習方法と授業の注意点

1. 授業の前 ～ 予習 ～

次の授業で進むと予想される箇所全体に目を通しておくことは最低限しておきましょう。予習の段階では教科書で学んだことをしっかり思い出し、次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

2. 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

授業は学習の基本です。集中して臨んで下さい。居眠りやスマホを見るなど言語道断です。

ノートについても確実にとるようにしましょう。また、大事なことはしっかりメモし、後から見ても十分分かるノート作りをしましょう。

3. 授業後 ～ 復習 ～

授業で分からなかったところをそのままにしておくと次の授業も当然分かりません。空いている時間を見つけて先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。

問題を数多く解くことも大事ですが質も重視したいです。進学を目指す者は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は、のちに大きな力となります。

○ 評価の方法（考査のポイント・注意事項と平常点の付け方）

各定期考査での評価は、考査による点数と平常点を併せて100点満点で算出されます。

[考査]

考査は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものですから、問題集の内容を十分理解した上で、反復練習を行い実力を確かなものにして臨むようにしましょう。その場限りの学習では欠点になる危険性大です。

[平常点]

「平常点」は原則として30点以内とし、関心・意欲・態度、提出物、小テスト、出席状況を総合的に判断して算出します。

※評価の観点は以下のとおり。

観 点	評価項目 身に付けたい学力を観点別に整理し、 以下に示します。	の学 観習 察状 況	提 出 物	小 テ ス ト	定 期 考 査
数学的な見方や 考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	○	◎	○	○
数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	○	△	◎	◎
知識・理解	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	○	△	◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する，△：あまり重視しない）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
数学	数学Ⅱ	3年 理系 選択	3	最新 数学Ⅱ (数研出版)	書き込み式ファインノート 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B (第一学習社)	105

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 (どのような内容を学ぶのか)	到達目標 (どのようなことを身に付けたいか)	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	第1章 式と証明	5	・ n 乗の差と n 乗の和の因数分解公式の成り立ちについて学ぶ。 ・ $(a+b+c)$ の n 乗の展開について学ぶ。 ・ 恒等式の性質を利用して、部分分数分解を行う。 ・ 等式や不等式の証明を行う。	・ 展開公式を理解し、展開や因数分解ができること。 ・ 二項定理を繰り返して展開できる。 ・ 部分分数分解を理解し、計算ができる。	A・B・C A・B・C A・B・C
		第2章 複素数と方程式	4	・ 相加平均・相乗平均の図形における意味を学ぶ ・ 複素数を使ってすべての2次方程式や3次方程式が解を持つことを学ぶ。その中で ω を紹介し、 ω の性質を理解する。 ・ 共役な複素数について学ぶ	・ 図形における相加平均・相乗平均を理解する。 ・ 複素数解を理解し、複素数の範囲で方程式が解けること、また、 ω の性質を理解する。 ・ 共役な複素数も方程式の解であることを理解する。	A・B・C A・B・C
6	考查		1			A・B・C
7	第二回 考查範囲	第3章 図形と方程式	9	・ 三角形や直線や円などを座標平面上に置くことにより図形の性質を計算によって求められることを再認識する。 ・ アポロニウスの円や線分の中点の軌跡を求める。	・ 図形を数式によって性質を見いだすことを理解する。 ・ アポロニウスの円や線分の中点の軌跡が求められる。	A・B・C A・B・C
		第1節 点と直線	9			A・B・C
8		第2節 円、軌跡と領域	9	・ 領域を利用して線形計画法を説明する。数学の実用性に触れて、興味や関心を高める。	・ 線形計画法を用いて、解答を求めることができる。	A・B・C
9	考查		1			
10	第三回 考查範囲	第4章 三角関数	7	・ 弧度法の有用性を説明し、様々な三角関数のグラフを書く。	正弦曲線と余弦のグラフが位相の違いだけであることを理解すること。また様々なグラフが書ける。	A・B・C A・B・C
		第1節 三角関数	7	・ 三角関数の合成が加法定理の応用であることを説明し、合成を利用してグラフを書く。	・ 三角関数の合成ができて、グラフが書ける。	A・B・C
11		第2節 加法定理	3	・ トレミーの定理から三角関数の加法定理を導く	・ 三角関数の加法定理を導き、それらの活用ができる。	A・B・C
		第5章 指数関数と対数関数	6	・ 2倍角の公式や半角の公式を復習し、三角関数を含む方程式を解く。 ・ 様々な指数関数と対数関数のグラフを書く。	・ 加法定理から2倍角の公式、半角の公式、合成公式などを導き、それらの活用ができる。 ・ 指数関数や対数関数のグラフが書ける。	A・B・C A・B・C
12	第四回 考查範囲	第6章 微分法と積分法	4	・ 瞬間とは何かを考察し、平均変化率と微分係数の意味を再確認する。	・ 電車の平均の速さと瞬間の速さの意味を理解する。	A・B・C
		第1節 微分法	5	・ グラフを利用して、方程式の解の個数を求める。また不等式を解く	・ 方程式や不等式をグラフを用いて解くことができる。	A・B・C
1		第2節 積分法	5	・ 区分求積法として極限値の意味を再認識し、面積を求める。 ・ 3次関数のグラフと x 軸で囲まれた面積を求める。	・ 定積分を利用して直線や曲線で囲まれた図形の面積を求められる。	A・B・C
	考查		1			

3年 数学Ⅱ

○ 学習の目的とねらい

3年生の数学Ⅱでは1・2年次に学習した内容について教科書より深い内容の問題まで取り組み、数学の本質とは何かを身につけることを目標として学習していきます。

また、数学的活動を通して創造性の基礎を身につけるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、今後の社会生活で活用する力を育てます。

○ 学習方法と授業の注意点

1. 授業の前 ～ 予習 ～

次の授業で進むと予想される箇所全体に目を通しておくことは最低限しておきましょう。予習の段階では教科書で学んだことをしっかり思い出し、次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

2. 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

授業は学習の基本です。集中して臨んで下さい。居眠りやスマホを見るなど言語道断です。

ノートについても確実にとるようにしましょう。また、大事なことはしっかりメモし、後から見ても十分分かるノート作りをしましょう。

3. 授業後 ～ 復習 ～

授業で分からなかったところをそのままにしておくと次の授業も当然分かりません。空いている時間を見つけて先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。

問題を数多く解くことも大事ですが質も重視したいです。進学を目指す者は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は、のちに大きな力となります。

○ 評価の方法（考査のポイント・注意事項と平常点の付け方）

各定期考査での評価は、考査による点数と平常点を併せて100点満点で算出されます。

[考査]

考査は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものですから、問題集の内容を十分理解した上で、反復練習を行い実力を確かなものにして臨むようにしましょう。その場限りの学習では欠点になる危険性大です。

[平常点]

「平常点」は原則として30点以内とし、関心・意欲・態度、提出物、小テスト、出席状況を総合的に判断して算出します。

※評価の観点は以下のとおり。

観 点	評価項目 身に付けたい学力を観点別に整理し、 以下に示します。	の学 観習 察状 況	提 出 物	小 テ ス ト	定 期 考 査
数学的な見方や 考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	○	◎	○	○
数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	○	△	◎	◎
知識・理解	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	○	△	◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する，△：あまり重視しない）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
数学	数学Ⅱ	3年 文系 選択	2	最新 数学Ⅱ (数研出版)	書き込み式ファインノート 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B (第一学習社)	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 (どのような内容を学ぶのか)	到達目標 (どのようなことを身に付けたいか)	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	第1章 式と証明	3	・ n 乗の差と n 乗の和の因数分解公式の成り立ちについて学ぶ。	・ 展開公式を理解し、展開や因数分解ができること。	A・B・C
		第2章 複素数と方程式	2	・ $(a+bi)^n$ の n 乗の展開について学ぶ。	・ 二項定理を繰り返して展開できる。	A・B・C
2	・ 恒等式の性質を利用して、部分分数分解を行う。		・ 部分分数分解を理解し、計算ができる。	A・B・C		
2	・ 等式や不等式の証明を行う。		・ 様々な等式や不等式の証明ができる。	A・B・C		
2	・ 相加平均・相乗平均の図形における意味を学ぶ		・ 図形における相加平均・相乗平均を理解する。	A・B・C		
5	第二回 考查範囲	第2章 複素数と方程式	2	・ 複素数を使ってすべての2次方程式や3次方程式が解を持つことを学ぶ。その中で ω を紹介し、 ω の性質を理解する。	・ 複素数解を理解し、複素数の範囲で方程式が解けること、また、 ω の性質を理解する。	A・B・C
			2	・ 共役な複素数について学ぶ	・ 共役な複素数も方程式の解であることを理解する。	A・B・C
6	考查		1			
7	第三回 考查範囲	第3章 図形と方程式	7	・ 三角形や直線や円などを座標平面上に置くことにより図形の性質を計算によって求められることを再認識する。	・ 図形を数式によって性質を見いだすことを理解する。	A・B・C
		第1節 点と直線	7	・ アポロニウスの円や線分の中点の軌跡を求める。	・ アポロニウスの円や線分の中点の軌跡が求められる。	A・B・C
8	第四回 考查範囲	第2節 円、軌跡と領域	7	・ 領域を利用して線形計画法を説明する。数学の実用性に触れて、興味や関心を高める。	・ 線形計画法を用いて、解答を求めることができる。	A・B・C
9	考查		1			
10	第五回 考查範囲	第4章 三角関数	4	・ 弧度法の有用性を説明し、様々な三角関数のグラフを書く。	・ 正弦曲線と余弦のグラフが位相の違いだけであることを理解すること。また様々なグラフが書ける。	A・B・C
		第1節 三角関数	5	・ 三角関数の合成が加法定理の応用であることを説明し、合成を利用してグラフを書く。	・ 三角関数の合成ができて、グラフが書ける。	A・B・C
11	第六回 考查範囲	第2節 加法定理	2	・ トレミーの定理から三角関数の加法定理を導く	・ 三角関数の加法定理を導き、それらの活用ができる。	A・B・C
		第5章 指数関数と対数関数	4	・ 2倍角の公式や半角の公式を復習し、三角関数を含む方程式を解く。	・ 加法定理から2倍角の公式、半角の公式、合成公式などを導き、それらの活用ができる。	A・B・C
12	第七回 考查範囲	第1節 指数関数	4	・ 様々な指数関数と対数関数のグラフを書く。	・ 指数関数や対数関数のグラフが書ける。	A・B・C
			2	・ 星の明るさや炭素年代測定法を取り上げ、指数や対数の有用性を理解する。	・ 指数や対数の有用性を理解する。	A・B・C
12	第八回 考查範囲	第6章 微分法と積分法	3	・ 瞬間とは何かを考察し、平均変化率と微分係数の意味を再確認する。	・ 電車の平均の速さと瞬間の速さの意味を理解する。	A・B・C
1	第九回 考查範囲	第1節 微分法	3	・ グラフを利用して、方程式の解の個数を求める。また不等式を解く	・ 方程式や不等式をグラフを用いて解くことができる。	A・B・C
		第2節 積分法	3	・ 区分求積法として極限値の意味を再認識し、面積を求める。3次関数のグラフとX軸で囲まれた面積を求める。	・ 定積分を利用して直線や曲線で囲まれた図形の面積を求められる。	A・B・C
	第十回 考查範囲		1			

3年 物理

○ 学習のねらい

物理基礎で学習した事物・現象について、さらに発展的な内容を、観察、実験を行いながら学習する。学習していく中で、自然に対する関心や探究心を高め、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に物事を考えることができるようになることがこの科目のねらいである。

主な学習内容は、様々な運動(物体の運動とつり合い、運動量と力積、円運動と単振動、万有引力、気体分子の運動)、波動(波の性質、音の性質、光の性質)、電気と磁気(電界と電位、電流、電流と磁界、電磁誘導と電磁波)、原子・分子の世界(電子と光、原子・原子核・素粒子)である。放射性物質や放射線の測定についても学習する。これらについて基本的な概念や法則を理解し、科学的に考える力を身に付けてほしい。

○ 学習方法

1 授業前 ～ 予習 ～

事前に教科書を読み、授業で学習するところを確認しておく。記号の意味、速度や力などの物理量の単位など、基本的なことは覚えておく。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

先生の話は集中して聞く。疑問に思った点、理解できないところは恥ずかしがらずに積極的に質問する。

3 授業後 ～ 復習 ～

教科書や問題集の練習問題を何度も繰り返しやってみる。さらに課題がほしいときは遠慮せずに先生にもらいに行く。

○ 評価方法

定期考査(テスト)は4回とも実施します。しっかり学習して臨んでください。

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行います。定期考査の割合は70～80%を原則とします。

観 点	評 価 項 目	取組 姿勢	ノ ー ト	レ ポ ー ト	課 題 演 習	定 期 考 査
関心・意欲・態度	身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示す。					
関心・意欲・態度	物理学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	◎	○	◎	○	◎
思考・判断・表現	物理学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	◎	○	◎	○	◎
観察・実験の技能	物理学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	◎		◎		
知識・理解	物理学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	○	○	◎	◎	◎

※記号の凡例(◎:特に重視する, ○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
理科	物理	3年 選択	4	物理 改訂版 (啓林館)	サンダイヤル ステップアップノート物理改訂版 (啓林館)	140

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか	到達目標 ※どのようなことを身に付けるのか	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	第1部 様々な運動	13	・速度と加速度	・平面内を運動する物体の運動について理解する。	A・B・C
		第1章 物体の運動と つり合い		・放物運動	・斜方投射された物体の運動を理解する。	A・B・C
		第2章 運動量と力積	9	・力のモーメント, 重心	・大きさのある物体のつり合いを理解する。	A・B・C
				・運動量と力積	・運動量と力積の関係について理解する。	A・B・C
5				・運動量保存の法則	・物体の衝突や分裂における運動量の保存を 理解する。	A・B・C
				・反発係数, 衝突とエネルギー		A・B・C
6		第3章 円運動と単振動	10	・等速円運動, 速度, 角速度, 向心力	・衝突におけるはね返りについて理解する。	A・B・C
				・慣性力と遠心力	・円運動や単振動する物体の様子を表す方法 やその物体に働く力などについて理解する。	A・B・C
6	考查	第4章 万有引力	5	・単振動, ばね振り子, 単振り子	・惑星の運動に関する法則を理解する。	A・B・C
				・ケプラーの法則, 万有引力	・万有引力の法則及び万有引力による物体の 運動について理解する。	A・B・C
			1			
7	第二回 考查範囲	第5章 気体分子の運動	11	・気体の状態方程式	・気体分子の運動と圧力の関係について理解する。	A・B・C
				・ボイル・シャルルの法則	・気体の内部エネルギーについて, 気体の分子 運動と関連付けて理解する。	A・B・C
8		第2部 波動		・気体分子の運動, 内部エネルギー	・気体の状態変化における熱, 仕事及び内部エ ネルギーの関係を理解する。	A・B・C
		第1章 波の性質	12	・熱力学第1法則, 状態変化, モル比 熱, 熱機関, 不可逆変化		A・B・C
9		第2章 音の性質	12	・波の伝わり方, 波の干渉, 回折, 反 射, 屈折, ホイヘンスの原理	・波の伝わり方とその表し方について理解する。	A・B・C
				・音波	・波の干渉, 回折, 反射, 屈折について理解する。	A・B・C
			1	・ドップラー効果	・音のドップラー効果について理解する。	A・B・C
10	第三回 考查範囲	第3章 光の性質	10	・光の進み方	・光の速さ, 反射と屈折について理解する。	A・B・C
				・光の性質	・光のスペクトル, 散乱, 偏光について理解する。	A・B・C
11		第3部 電気と磁気		・レンズと球面鏡	・レンズや球面鏡による像, 回折と干渉について 理解する。	A・B・C
		第1章 電界と電位	12	・クーロンの法則, 静電誘導	・電荷が相互に及ぼし合う力や電界の表し方を 理解する。	A・B・C
11		第2章 電流	8	・電界, 電気力線, 電位, コンデンサ	・電界と電位の関係, コンデンサーの性質, 電 気回路について理解する。	A・B・C
		第3章 電流と磁界	9	・電気回路, キルヒホッフの法則	・電流が作る磁界の様子を理解する。	A・B・C
			1	・磁界, 電流の作る磁界, 電流が磁 界から受ける力, ローレンツ力	・電流が磁界から受ける力について理解する。	A・B・C
12	第四回 考查範囲	第4章 電磁誘導と電磁波	12	・電磁誘導の法則	・電磁誘導と交流について, 現象や法則を理解 する。	A・B・C
				・自己誘導と相互誘導, 交流	・電磁波について, 性質とその利用を理解する。	A・B・C
1		第4部 原子・分子の世界		・電磁波の性質とその利用		A・B・C
		第1章 電子と光	6	・電子の電荷と質量, 光の粒子性, X線	・電子の電荷と質量, 電子や光の粒子性と波動 性について理解する。	A・B・C
1		第2章 原子・原子核・素粒子	6	・物質波	・原子の構造及びスペクトルと電子のエネル ギー準位の関係, 原子核の構成, 原子核の崩 壊及び核反応について理解する。	A・B・C
				・原子モデル	・素粒子の存在について知る。	A・B・C
		終章 物理学が築く未来	1	・放射線と原子核, 原子核反応	・新エネルギー源について, 討論を通して探究する。	A・B・C
			1	・素粒子と宇宙		A・B・C
			1	・エネルギーの変換		A・B・C
2	考查		1			

3年 化学

○ 学習のねらい

- ・化学基礎の学習内容をふまえ、基本的な化学的概念や原理・法則の理解を深める。
また、実験や観察を通して、化学的事象に対する探究心を育てる。
- ・上位学校への進学に向けて、化学の基礎的な知識の定着をはかる。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

①化学基礎の総復習をすること。

- ・本教科では、化学基礎の学習内容を理解していることが前提となります。特に以下の分野については5月初旬までに復習が完了しておくこと。

- 元素記号，組成式，分子記号 ○原子の構成，化学結合，化学反応式
- 物質質量(mol)の計算，濃度(%，mol/L)の計算，化学反応における量的関係

②授業前に行うこと。

- ・教科書→セミナー化学基礎+化学の「まとめ」を読む。
セミナー化学基礎+化学の「プロセス」や「基本例題」を解き，疑問点を明確にする。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ・授業は講義形式で行います。疑問点をそのままにしておく，理解出来ないまま授業が進んでいきますので，**わからない箇所こそ積極的に発言すること。**
- ・実験を多く行います。危険な薬品を多く扱いますので，白衣を必ず着用すること。また，指示をよく聞きそれに従うこと。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ・セミナー化学基礎+化学の「プロセス」，「基本例題」のうち，予習でわからなかったものをもう一度解く。理解できたなら「基本問題」および「発展例題」を解く。

※化学は暗記科目ではありません。従って，試験も覚えたから解ける問題ではなく，理解している事が大切になります。試験1～2週間前に集中して学習するよりも，毎日短時間で良いから，予習，復習を心掛けましょう。

※本授業は課外授業とも連携します。化学の課外授業を受講することを強く薦めます。

○ 評価の方法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち，定期考査の割合は80%を原則とする。

観 点	評価項目			
	身に付けたい学力を 観点別に整理し，以下に示します。	授業 ノート 課題 等	実験 および レポート	定期 考査
関心・意欲・態度	自ら積極的に学習に取り組み，自然の事物・現象に興味をもつことができる。	◎	◎	
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし，事象を科学的に考察するとともに，導き出した考え方を的確に表現している。	○	◎	○
観察・実験の技能	実験・観察を行い，自然の事物・現象を科学的に探究することができる。		◎	
知識・理解	自然の事物・現象に対する，基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，知識が身についている。	○	◎	◎

※記号の凡例 (◎：特に重視する，○：重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
理科	化学	3年理系	4	高等学校 改訂 化学 (第一学習社)	2019セミナー化学基礎+化学 (第一学習社)	140

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	第II章 物質の変化と平衡	7	・電池や電気分解について学習する。	・電池や電気分解の原理について理解する。	A・B・C
		第III章 無機物質	9	・元素の特徴を周期表と関連させて学習する。 水素、酸素、窒素などの非金属元素の単体や化合物についての特徴を学習する。	・主な元素の特徴について理解する。 様々な単体、化合物の特徴を理解する。	A・B・C
		・典型金属元素の単体と化合物	9	・典型金属元素の特徴について学習する。(含 イオン化傾向)	・典型金属元素の特徴を理解すると共に、イオン化傾向についても触れ、反応についても関連づけて理解する。	A・B・C
		・遷移金属元素の単体と化合物	9	・遷移金属元素の特徴について学習する。(含 酸化・還元反応)	・遷移金属元素の特徴を理解すると共に、酸化・還元反応についても関連づけて理解する。	A・B・C
6	考查		1			
7	第二回 考查範囲	第IV章 有機化合物	7	・有機化合物の特徴と構造について学習する。元素分析(計算)の演習も行う。	・構造異性体について理解する。元素分析の計算方法を身に付ける。	A・B・C
		・脂肪族炭化水素	9	・飽和、不飽和炭化水素の特徴および、エチレン、アセチレンとその誘導体について学習する。	・各化合物の特徴および、反応について理解する。	A・B・C
		・酸素を含む脂肪族炭化水素	9	・アルコール、アルデヒド、ケトン、カルボン酸の特徴と反応について学習する。	・アルコールの酸化とアルデヒド、ケトン、カルボン酸について関連づけて理解する。	A・B・C
		・芳香族化合物	9	・それぞれの化合物について、脂肪族と関連づけて学習する。	・フェノール、サリチル酸、アニリンとその誘導体について特徴と反応を憶えるとともに、その他の化合物についても関連づけて理解する。	A・B・C
9	考查		1			
10	第三回 考查範囲	第V章 高分子化合物	9	・糖、タンパク質、ナイロン、合成樹脂などの物質を中心に学習する。	・基本的な高分子化合物について、上記の有機化合物の特徴と関連づけて理解する。	A・B・C
		第I章 物質の状態	8	・原子の結合を中心に学習する。	・分子間力と物質の性質を関連づけられる。	A・B・C
		・物質の三態と熱運動	9	・ポイルシャルルの法則、状態方程式について学習する。	・各法則について理解し、計算ができる。	A・B・C
		・気体の性質	8	・沸点上昇凝固点降下、コロイドを中心に学習する。	・分子(コロイド)と溶液の性質を関連して理解できる。	A・B・C
11	考查		1			
12	第四回 考查範囲	第II章 物質の変化と平衡	8	・熱化学方程式とヘスの法則について学習する。	・熱化学方程式の書き方を理解し、ヘスの法則により反応熱を求められるようにする。	A・B・C
		・物質とエネルギー	8	・化学反応のしくみと反応速度について学習する。	・化学反応をエネルギー状態と関連づけて理解する。(含 触媒の役割)	A・B・C
		・化学反応の速さ	9	・ルシャトリエの法則を中心に学習する。	・平衡移動について、基本的概念を押さえる。	A・B・C
		・化学平衡	9	・酢酸の電離平衡と電離定数を中心に学習する。	・電離平衡を理解し、電離平衡定数や酸、塩基の濃度、電離度を求められるようにする。	A・B・C
1	考查		1			
2						
3						

3年 生物

○ 学習のねらい

「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生命現象をさらに広範囲に取り扱い、学習します。学習していく過程で、自然に対する関心や探究心を高め、生物学の基本的な概念や原理・原則についての理解を深め、科学的なものの見方を養うことがこの科目のねらいです。

「生物」とは何か、「生きる」とはどういうことなのか。最近の生物学では、特に遺伝子を中心に様々な研究が進められ、現在も発展を続けています。よくニュースなどで目にする「遺伝子組換え」「クローン」「ヒトゲノム」「iPS細胞」などはその代表的な例です。発展を続ける生物学を理解する上で、必要とされる基礎学力を身につけるとともに、実験・観察を通して自然を科学的に探究する力を養います。さらに命の営みを学習することで、生命倫理や環境問題について総合的に考えることのできる学力を身につけてゆくことを目指します。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

① 1年次に学習した「生物基礎」はもちろん、2年次に学習した「化学基礎」もしっかりと復習しておく。
1年次に学習した生物基礎の内容は、理解しているということを前提で授業を進める。

② 今まで以上に本や新聞、関連するテレビ番組なども意識して見るようにし、知識を得るだけでなく、様々なことに疑問を感じ、自分なりの意見で考察すること。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

① ノートは板書事項だけではなく、先生が説明したことで重要なところや忘れそうなところも自分で判断し、しっかりとメモしておく。

② 授業の内容をただ暗記するだけではなく、どのようなことを知るために、どのような実験をし、どのような結果がでるかなど、常に自分で筋道を立てて考えながら学習をする。

3 授業後 ～ 復習 ～

宿題は、確実に期限まで提出すること。また小テストを行う時は、しっかりその分野の復習をすること。

○ 評価の方法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行います。定期考査の割合は70～80%を原則とします。

考査では、学習した内容がきちんと定着しているか、自ら考え判断することができるか等について評価を行う。授業中話したことやノート、教科書、問題集、プリントなどをよく見直し、専門用語等はきちんと漢字で書けるようにしておくこと。ひらがな・誤字は減点とします。

また提出物（ノート、課題、実験レポートなど）、小テスト、授業態度、出席状況等から学習に対する関心・意欲等を重視します。

観 点	評価項目 身につけたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学 習 状 態 の 観 察	実 験 等	提 出 物	小 テ ス ト	定 期 考 査
思考・判断・表現	生物学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考え方を的確に表現している。	○	○	◎		◎
観察・実験の技能	実験・観察を行い、基本操作を修得するとともに、生物学的な事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	○	◎	○		○
知識・理解	生物学的な事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、知識が身につけている。	○		○	◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
理科	生物	3年 選択	4	高等学校 改訂 生物 (第一学習社)	ニューステージ新生物図表(浜島書店) スタディノート生物(第一学習社)	140

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査範囲	第1編 生命現象と物質 第1章 細胞と分子	12	生体を構成する細胞について、観察・実験などを通して探究する。タンパク質や核酸などの物質の働きを理解し、物質レベルでの生命現象を学習する。 実験:カタラーゼの働き	細胞や生体膜の構造, およびそれらを構成する物質の特徴を理解する。 タンパク質の立体構造と酵素反応の特徴について理解する。	A・B・C
		第2章 代謝	10	生物は、生きていくうえで必要な物質やエネルギーの多くを代謝によって得ていることを学習する。 実験:酵母によるアルコール発酵 葉緑体に含まれる色素の抽出・分離	代謝とエネルギー代謝, 同化, 窒素同化, 異化のしくみについて理解する。	A・B・C
		第3章 遺伝情報の発現	14	"命の設計図"ともいわれるDNAの構造や複製方法, またどのようにして遺伝情報を発現するか等を学び, タンパク質合成のしくみを学習する。	DNAの構造とその複製のしくみについて理解する。遺伝情報の発現調節のしくみについて, 科学的に理解する。また, 遺伝子を扱うさまざまな技術を理解し, バイオテクノロジーへ応用されている現実とその課題を理解する。	A・B・C
6	考査		1			
7	第二回 考査範囲	第2編 生殖と発生 第4章 有性生殖	8	生物の生殖や発生について観察・実験などを通して探究し, 動物と植物の配偶子形成から形態形成までのしくみを学習する。 実験:ウニの発生	配偶子が減数分裂を通じて形成されること, 有性生殖によって多様な遺伝的組み合わせをもった新個体が生じることを理解する。	A・B・C
		第5章 動物の発生	16		動物の配偶子形成と発生の過程について理解する。母性因子の濃度勾配によって体軸が決定されていることを理解する。	A・B・C
		第6章 植物の発生	12		動物の発生と植物の発生の違いを科学的に理解し, 説明できる。	A・B・C
9	考査		1			
10	第三回 考査範囲	第3編 生物の環境応答 第7章 植物の環境応答	13	環境の変化に生物が反応していることを学習する。また生物個体が外界の変化を感知し, それに反応する仕組みを学習する。 実験:フタの眼の解剖, ヒトの眼の盲斑	さまざまな植物ホルモンの種類と働き, また植物の環境応答について理解する。	A・B・C
		第8章 動物の反応と行動	14		ヒトの受容器, 神経系, 効果器と反応について理解する。また, 動物の生得的な行動, 学習による行動について理解する。	A・B・C
11		第4編 生物と環境 第9章 個体群と生物群集	8	生物の個体群と群集について観察・実験などを通して学習し, それらの構造や変化の仕組みを学習する。	生物は, 同種の個体間でさまざまな関係をもって生活していること, また他種の生物との間でも互いに影響を及ぼしあっていることを理解する。	A・B・C
12		考査		1		
1	第四回 考査範囲	第10章 生態系	11	生態系のバランスとそれが人間生活に及ぼす影響を学習し, 人間が生態系のなかで何をなすべきかを考察する。	地球上に存在する多様な生態系について, それらの構造や物質生産の特徴を理解する。また, 生物多様性保全の重要性を理解する。	A・B・C
		第5編 生物の進化と系統 第11章 生物の進化	9	生物の進化の過程とその仕組み, および生物の系統とその多様性について学習し, 進化についての考え方を身につける。 実験:コアセルバートの作成 維管束の観察	地球上に存在する多様な生態系について, それらの構造や物質生産の特徴を理解する。また, 生物多様性保全の重要性を理解する。	A・B・C
		第12章 生物の系統	9		二名法による種の表し方や系統樹について, また生物は大きく界やドメインに分けられることを理解する。各界に属する生物の特徴を理解する。	A・B・C
3		考査		1		

3年 化学基礎

○ 学習のねらい

3年生の化学基礎では2年次に学習した内容について教科書より深い内容の問題まで取り組み、センター試験程度にも対応できる学力を身につけることを目標として学習します。副教材を用いた演習中心の授業ですが実験も行います。白衣等の実験の準備を忘れずに行ってください。実験後にはレポート等の課題を義務づけることとなります。その際には、必ず提出してください。特に実験は実験操作や結果に基づく考察から科学的な見方や考え方を学ぶことにより、今後の社会生活で活用できる力を育てます。

また、皆さんの多くが計算問題を苦手とする傾向がありますが、入学試験では頻出の事項となっています。計算問題にも積極的に挑戦する姿勢を育てることもねらいとしています。

授業に向けて下記の2年生の学習内容を特に復習しておきましょう

- ・ 元素記号，組成式・分子式・構造式などの化学式
- ・ 原子の構成，化学結合，化学反応式
- ・ 物質質量(mol)の計算，濃度(%，mol/L)の計算，化学反応における量的関係
- ・ 酸・塩基の量的関係

○ 学習方法

1 授業前 ～ 予習 ～

事前に教科書を読み，授業で学習するところを確認しておいてください。演習中心の授業となるので，あらかじめ授業で取り組みそうな問題を確認することを進めます。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

先生の話は集中して聴く。疑問に思った点，理解できないところは恥ずかしがらずに積極的に質問するようにしましょう。

3 授業後 ～ 復習 ～

教科書や問題集の練習問題を何度も繰り返し解いてみましょう。さらに課題がほしいときは遠慮せずに先生にもらいに来てください。また，考査前の学習は，授業で取り上げた問題だけでなく考査範囲の問題をすべて理解して臨むよう心がけてください。

○ 評価の方法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行い，定期考査の割合は70～80%を原則とします。

観 点	評価項目			
	身に付けたい学力を 観点別に整理し，以下に示します。	授業 ノート 課題 等	実験 および レポート	定期 考査
関心・意欲・態度	自ら積極的に学習に取り組み，自然の事物・現象に興味をもつことができる。	◎	◎	
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし，事象を科学的に考察するとともに，導き出した考え方を的確に表現している。	○	◎	○
観察・実験の技能	実験・観察を行い，自然の事物・現象を科学的に探究することができる。		◎	
知識・理解	自然の事物・現象に対する，基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，知識が身につけている。	○	◎	◎

※記号の凡例 (◎：特に重視する，○：重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
理科	化学基礎	3年文系	2	高等学校 改訂 化学基礎 (第一学習社)	改訂 ネオパルノート化学基礎 (第一学習社)	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった	
4	第一回 考查範囲	第1章 物質の構成					
		1 化学と人間生活	4	・金属の利用, プラスチック 身のまわりの化学現象など演習	・化学と人間生活に関する基本的な問題が解けるようになる。	A・B・C	
		2 物質とその分離	4	・物質の分離, 生成 成分元素など演習	・物質の分離に関する基本的な問題が解けるようになる。	A・B・C	
		3 熱運動と物質の三態	4	・物質の三態 状態変化など演習	・状態変化に関する基本的な問題が解けるようになる。	A・B・C	
5		4	4 原子の構造と周期表	5	・原子の構成, 電子配置 周期表など演習	・原子の構成など基礎的な内容を理解し, 基本的な問題が解けるようになる	A・B・C
6	考查		1				
7	第二回 考查範囲	5 化学結合(1)	4	・イオン結合, 共有結合 電子式, 金属の特徴など演習	・それぞれの化学結合を理解し, 基本的な問題が解けるようになる。	A・B・C	
		6 化学結合(2)	4	・化学結合の違い 結晶の種類, 性質など演習	・化学結合の違いや結晶の違いを理解し, 基本的な問題が解けるようになる。	A・B・C	
		第2章 物質の変化					
		7 物質質量	4	・原子量, 分子量, 式量 物質質量など演習	・物質質量を理解し, 基本的な問題が解けるようになるとともに, 計算の定着を目指す。	A・B・C	
8		4	8 溶液の濃度	4	・質量%濃度, モル濃度など演習	・各濃度の計算方法を理解し, 発展的な計算問題にも挑戦する。	A・B・C
9	考查		1				
10	第三回 考查範囲	9 化学反応と量的関係	4	・化学反応式と量的関係 過不足のある反応など演習	・化学反応式の量的関係を理解し, 発展的な問題にも挑戦する。	A・B・C	
		10 酸と塩基, 中和	4	・酸塩基の性質 中和反応など演習	・酸・塩基に関する基本的な問題が解けるようになる。	A・B・C	
		11 中和滴定	3	・中和滴定の操作方法 量的関係の計算問題演習	・中和の量的関係を理解し, 発展的な問題に挑戦する。	A・B・C	
		12 酸化・還元(1)	3	・酸化・還元 酸化剤・還元剤など演習	・酸化還元に関する基本的な問題が解けるようになる。	A・B・C	
		13 酸化・還元(2)	3	・酸化還元の量的関係計算問題演習	・酸化還元の量的関係を理解し, 発展的な問題に挑戦する。	A・B・C	
12	第四回 考查範囲	問題演習 第1~4回	8	・問題集のまとめ演習	問題集の問題やセンター試験の過去問を取り組むことにより, センター試験に対応できる応用力を身につける。	A・B・C	
1		センター試験過去問	8	・近年の過去問演習		A・B・C	
2	考查		1				

3年 生物基礎

○ 学習のねらい

「生物基礎」では、1年次での学習内容をより深めることを目指す中で、日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって問題演習に取り組み、観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を培うことを目標とする。

現在大きな社会問題になっている生物多様性や環境問題、生物学に基づく技術の発展、健康と生活習慣との関係を理解するためにも、生物学の基礎知識は不可欠であり、生物学的な見方や知識を幅広く修得し、日常生活と関連付けて考える力を身に付けてほしい。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

① 1年次に学習した「生物基礎」の基本事項（重要語句等）を復習しておく。

1年次に学習した生物基礎の内容は、理解しているということを前提で授業を進める。

② 指定された問題集を予め解いておく。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

問題演習の解説を、集中してしっかり聞き取り、その時間内で理解することが大切です。休まない、寝ないは当たり前。ノートは板書事項だけではなく、先生が説明したことで重要なところや忘れそうなどところもしっかりとメモしておきましょう。

3 授業後 ～ 復習 ～

単元ごとの小テストに向け、問題集を活用し、復習をしっかり行うこと。基本的な事項は暗記が必要。覚えるまで何度も取り組むこと。

○ 評価の方法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行います。定期考査の割合は70～80%を原則とします。

考査では、学習した内容がきちんと定着しているか、自ら考え判断することができるか等について評価を行う。授業中話したことやノート、教科書、問題集、プリントなどをよく見直し、専門用語等はきちんと漢字で書けるようにしておくこと。ひらがな・誤字は減点とします。

また提出物（ノート、課題、実験レポートなど）、小テスト、授業態度、出席状況等から学習に対する関心・意欲等を重視します。

※評価の観点は以下のとおり。

観 点	観 点 別 に 整 理 し、 以 下 に 示 し ま す。	評 価 項 目				
		学 習 状 態 の 観 察	実 験 等	提 出 物	小 テ ス ト	定 期 考 査
関心・意欲・態度	生物の構造や生命維持のしくみに関心を持ち、それらを積極的に学ぼうとしている。	○	◎	○	◎	○
思考・判断・表現	生物の事物・現象の中に疑問を見だし、科学的に考えるとともに、疑問点や自分の考えを的確に表現している。	○	○	◎		◎
観察・実験の技能	実験・観察を行い、生物の事物・現象を探究することができる。また実験器具の操作を的確に行うことができる。	○	◎	○		○
知識・理解	生物のからだの構造や各器官の働き、基本的概念を理解するとともに、知識が身についている。	○		○	◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
理科	生物基礎	3年 選択	2	高等学校 改訂 生物基礎 (第一学習社)	ニューステージ新生物図表(浜島書店) リードα生物基礎完成ノート(数研出版)	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性	7	・地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であること。 ・生物が共通にもつ特徴について。 ・細胞の構造について。	・生物の共通の特徴について説明出来る ・原核細胞と真核細胞の違いと、細胞小器官の働きについて説明出来る	A・B・C A・B・C
		2. 細胞とエネルギー	8	・代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わりについて。 ・ミトコンドリアと葉緑体の起源についておよび共生説について。	・ATPの構造とはたらきについて説明出来る ・共生説について説明出来る	A・B・C A・B・C
		第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝現象と遺伝子	2	・ヌクレオチドの構造および、塩基の相補性にもとづくDNAの二重らせん構造について。	・DNAの研究史とその構造について説明出来る	A・B・C
6	考查	1				
7	第二回 考查範囲	2. 遺伝情報の複製と分配	5	・細胞の分裂の各過程で起こる現象について。	・体細胞分裂過程を説明出来る	A・B・C
		3. 遺伝情報とタンパク質の合成	5	・生体内に存在する様々なタンパク質とその合成過程について。	・転写、翻訳のしくみを説明出来る	A・B・C
		第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境 1. 体液とその働き	6	・恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について。 ・体内の恒常性維持における、体液・肝臓・腎臓の役割について。	・酸素解離曲線を読み取ることが出来る ・腎臓での尿生成のしくみを説明出来る	A・B・C A・B・C
9	考查	1				
10	第三回 考查範囲	2. 生体防御	6	・皮膚や上皮による生体防御および、免疫による生体防御について。	・自然免疫と獲得免疫の仕組みを説明出来る	A・B・C
		3. 体内環境の維持のしくみ	6	・自律神経系とホルモンによる調節のしくみについて。	・血糖量および体温調節のしくみについて説明出来る	A・B・C
		第3編 生物の多様性と生態系 第4章 バイオームの多様性と分布 1. 生物の多様性とバイオーム	2	・さまざまな植生の分類と成り立ちについて ・植生の遷移について	・森林、草原、荒原の植生について説明出来る ・一次遷移について説明出来る	A・B・C A・B・C
11	第三回 考查範囲	2. バイオームの形成過程	3	・気候とバイオームの関係について	・気候、降水量とバイオームの関係について説明出来る	A・B・C
		3. バイオームとその分布	4	・世界と日本のバイオームについて	・日本および世界のバイオームの分布について説明出来る	A・B・C
12	考查	1				
1	第四回 考查範囲	第5章 生態系とその保全 1. 生態系	4	・生態系のエネルギーの流れについて	・窒素と炭素の循環について説明出来る	A・B・C
		2. 生態系のバランスと保全	4	・人間活動の生態系への影響について	・地球環境問題について説明出来る	A・B・C
		3. 生態系の保全	4	・自然環境の保全と取り組みについて	・自然環境の取り組みの重要性和、世界的な取り組みについて説明出来る	A・B・C
		考查	1			
2						
3						

3年 地学基礎

○ 学習のねらい

2学年の地学基礎にて、地球には、大気や海、そして、火山や地震などさまざまな自然があり、また、その地球が存在している空間が宇宙であることを学びました。3年生では、コラムなどに掲載されている発展的な内容を学びます。また、授業と平行して、各自テーマを決め地学分野での課題研究に取り組んでもらい、最終的にはクラス内で研究発表会を行います。この1年を通して自然に対する関心や探究心を高め、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育てることをねらいとします。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

授業前の準備として重要なのは、授業に積極的に参加しようとする心構えです。地学は自然科学の中でも仮説（予想）を立て、それを検証（確かめる）することで発展してきた科目です。地学現象をよく理解するためには、自分なりの考えをもって授業にのぞむことがとても大切になります。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

授業中は私語は厳禁です。ただし、質問は何時でもして下さい。自分なりの考えや予想を訪ねられたときは、しっかり答えて下さい。また、授業中に、他の教科の課題やノートの写しなどを目を盗んで作業するようなずるいことは厳禁です。実習では文字を丁寧に書き、スケッチもすぐにあきらめずできる限り丁寧に描くよう心掛けて下さい。ノートの文字も丁寧に書くことが重要です。授業中に使用したプリントはノートに授業の順序が分かるようにノリで貼りましょう。ノートには必ず記載した日付を付け、整然と整理すると後で読み返すとき便利です。

3 授業後 ～ 復習 ～

授業後は授業で使用した教科書・ノート・資料集・問題集などしっかりと管理し、授業を受けたままにはしないことを勧めます。地学用語については定期考査に出題することになります。しっかり暗記して下さい。そのための復習はしっかりとテスト前に時間を確保して復習して下さい。

○ 評価の方法

1 考査について

考査（テスト）は毎回実施します。しっかり勉強して臨んで下さい。

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行います。定期考査の割合は70～80%を原則とします。また授業態度、実習への取り組み、提出課題の内容を重視します。

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学 習	作 図	提 出	実 験	定 期
		状 態 の 観 察	等	物	観 察	考 査
関心・意欲・態度	自然の事物・事象に関心を持ち、それらを科学的に探究しようとしている。	○	○	○	○	◎
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、事象を科学的に考察するとともに、導き出した考え方を的確に表現している。	○	◎	○	○	◎
観察・実験の技能	実験・観察を行い、自然の事物・現象を科学的に探究することができる。	○	○	◎	◎	
知識・理解	自然の事物・現象に対する、基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、知識が身についている。	○	○	○	○	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する，△：あまり重視しない）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
理科	地学基礎	3年 選択	2	地学基礎 (数研出版)	改訂版 リードLightノート地学基礎(数研出版) スクエア 最新図説地学(第一学習社)	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 (どのようなことを身に付けたいか)	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	第1編 惑星としての地球 第1章 太陽系の中の地球	5	太陽系の天体 地球の誕生	・地球の誕生, 各惑星についての深い知識を身に付ける。	A・B・C
5		第2章 地球の形と大きさ	5	地球の形と大きさ	・歩測などを用いた測定を実際に行い, 地球の大きさを実感する。	A・B・C
		第3章 地球の構造	2	地球の構造	・地震波の観測より分かる, 地球内部の層構造について理解する。	A・B・C
6	第二 回 考 査 範 囲	第2編 活動する地球 第1章 プレートテクトニクス	5	プレートテクトニクス	・地球内部の活動により, プレートテクトニクスが引き起こされていることを理解する。	A・B・C
		第2章 火山	4	火山活動	・マグマを形成する物質の組成にも注目し, 火成岩の化学的特徴について理解する。	A・B・C
7		第3章 地震と地震活動	4	地震 変成作用	・世界の地震の分布を理解する。また, 地震波の性質と発生の仕組みや観測方法を理解する。	A・B・C
8	第三 回 考 査 範 囲	第4編 移り変わる地球 第1章 地層の形成	4	堆積作用と堆積岩 地層の形成	・地質図から, 地層の重なり方が作図できるようにする。また, クリノメーターを用いた測定方法についても学ぶ。	A・B・C
9		第2章 古生物の変遷と地球環境	4	地質時代の区分と化石 古生物の変遷	・地層などに残された痕跡より, 地球環境の変化が研究されてきたことを学び, 地球上の生物の変遷を理解する。	A・B・C
		第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支	5	大気の大循環 海水の運動	・光の特徴について学び, 太陽光の中には可視光線が多く含まれていることを理解する。また, 飽和水蒸気量から湿度計算ができるようにする。	A・B・C
10	第四 回 考 査 範 囲	第2章 大気と海水の運動	5	大気の大循環 海水の運動	・日本の季節毎の気象について理解する。	A・B・C
11		第5編 地球の環境 第1章 環境と人間	4	環境と人間 地球環境問題	・人間が環境に与える影響を理解し, 共存していく方法を考える。	A・B・C
		第2章 日本の自然環境	3	日本の自然環境 日本の自然災害	・日本列島の地形やその特徴について, 気候と結び付けて理解する。	A・B・C
12	第五 回 考 査 範 囲	第6編 宇宙の構成 第1章 太陽と恒星	8	太陽の活動 太陽の一生と恒星	・太陽内部で起こっている反応や, それによってできる物質について理解する。 ・太陽の誕生から終末までを学び, 他の恒星についても進化の課程を理解する。	A・B・C
1		第2章 宇宙のすがた	9	宇宙の構造 宇宙の誕生	・ハッブルの観測から宇宙膨張まで, 光の特徴も関連づけて理解する。 ・星の光について, 距離や温度との関係, 等級について理解する。	A・B・C
2		第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支	5	大気の大循環 海水の運動	・光の特徴について学び, 太陽光の中には可視光線が多く含まれていることを理解する。また, 飽和水蒸気量から湿度計算ができるようにする。	A・B・C
3						

3年 体育 (男子)

○ 学習の目的とねらい

- 1 基本的な運動技術を身につけ、運動の楽しさや喜びを味わうことができる。
- 2 常に自分の体の状態や変化を観察できるようになる。
- 3 スポーツを通しての人間関係や、ルールやマナーの重要性を知る。

○ 学習方法と授業の注意点

- 1 授業前 ～ 予習 ～
・授業に向けての準備と服装を整え、ウォーミングアップと整列を素早く行うこと。
- 2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～
・常に安全に留意し、素早い行動を心掛けること。
- 3 授業後 ～ 復習 ～
・後片付けを全員協力して素早く行うこと。

○ 評価の方法

考査・評価について

- ・評価は各期、以下の項目と観点に基づいて100点満点で行う。
- ・運動の技能、知識・理解：①技能の修得 ②実技テスト ③ゲームでの評価（動き・知識の理解等）
④取組みで5割とする。
- ・授業態度等：①関心・意欲・態度・思考・判断・表現を観点とする。
②準備体操・用具の準備・後片付け・服装・授業中の取組みの姿勢
③出席状況（欠席・遅刻・早退）病気や怪我などで長期的に実技ができない場合はレポート等で評価する。
上記①, ②, ③で5割分とし、総合的に判断して行う。
- ・その他： 基本的に授業の1/3欠席=49点以下, 1/2欠席=39点以下, 2/3欠席=19点以下になる。

※評価の観点は以下のとおり。 記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

観 点	評価項目	学習 状態 の 観 察	実技 ス キ ル	実技 テ ス ト	出 席 状 況
	身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。				
関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動しようとする。	◎	◎	○	◎
思考・判断・表現	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題解決を目指して考え、判断している。	◎	○	○	◎
運動の技能	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につける。	○	◎	◎	◎
知識・理解	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付けている。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	◎	○	○	◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健 体育	体育	3学年 男子	2	最新高等保健体育 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった	
4	第一 回 考査 範囲	オリエンテーション スポーツテスト 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと) サッカー上級 (体育理論を含む)	1	授業内容について 50m走・立ち幅跳び・反復横とび・シャトルラン・ボール投げ上体起こし・長座体前屈の測定について 各種目ごとにルール等説明などを行う	授業内容や評価方法について理解する 自分の基礎体力がどのぐらいのレベルにあるか理解する 各種目ごとにどのような仕組みで運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C	
5			4				個人だけではなくチームでの技術向上を目指し、円滑にゲームができるようになる。
6			15				
7	第二 回 考査 範囲	水泳 ソフトボール上級 (体育理論を含む)	5	自由形・平泳ぎ・背泳ぎについて 水慣れ、パタ足、ピート板を使った練習 守備の連携やバッティングについて	自由形・平泳ぎ・背泳ぎの泳法を身に付け、泳げる距離や時間を延ばす。 チームでの守備の連携やバッティングを理解し、ゲームが円滑にできるようになる。	A・B・C	
8			15				
9			考査				
10	第三 回 考査 範囲	バレーボール上級 (体育理論を含む)	15	レシーブやスパイク、三段攻撃を利用した試合の進め方について	試合の運営方法や個人のスキルだけではなく協力して色々な攻撃などができるようになる。	A・B・C	
11							考査
12							第四 回 考査 範囲
1	考査						
2							

3年 体育 (女子)

○ 学習の目的とねらい

- 1 基本的な運動技術を身につけ、運動の楽しさや喜びを味わうことができる。
- 2 常に自分の体の状態や変化を観察できるようになる。
- 3 スポーツを通しての人間関係や、ルールやマナーの重要性を知る。

○ 学習方法と授業の注意点

- 1 授業前 ～ 予習 ～
・授業に向けての準備と服装を整え、ウォーミングアップと整列を素早く行うこと。
- 2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～
・常に安全に留意し、素早い行動を心掛けること。
- 3 授業後 ～ 復習 ～
・後片付けを全員協力して素早く行うこと。

○ 評価の方法

考査・評価について

- ・評価は各期、以下の項目と観点に基づいて100点満点で行う。
- ・運動の技能、知識・理解：①技能の修得 ②実技テスト ③ゲームでの評価（動き・知識の理解等）
④取組みで5割とする。
- ・授業態度等：①関心・意欲・態度・思考・判断・表現を観点とする。
②準備体操・用具の準備・後片付け・服装・授業中の取組みの姿勢
③出席状況（欠席・遅刻・早退）病気や怪我などで長期的に実技ができない場合はレポート等で評価する。
上記①, ②, ③で5割分とし、総合的に判断して行う。
- ・その他： 基本的に授業の1/3欠席=49点以下, 1/2欠席=39点以下, 2/3欠席=19点以下になる。

※評価の観点は以下のとおり。 記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

観 点	評価項目	学習 状態 の 観 察	実技 ス キ ル	実技 テ ス ト	出 席 状 況
	身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。				
関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動しようとする。	◎	◎	○	◎
思考・判断・表現	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題解決を目指して考え、判断している。	◎	○	○	◎
運動の技能	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につける。	○	◎	◎	◎
知識・理解	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付けている。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	◎	○	○	◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健 体育	体育	3学年 女子	2	最新高等保健体育 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった					
4	第一回 考査範囲	オリエンテーション スポーツテスト 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	1	授業内容について	授業内容や評価方法について理解する	A・B・C					
			4	50m走・立ち幅跳び・反復横とび・シャトルラン・ボール投げ上体起こし・長座体前屈の測定について 各種目ごとにルール等説明などを行う	自分の基礎体力がどのぐらいのレベルにあるか理解する 各種目ごとにどのような仕組みで運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C A・B・C					
			15	サーブ・ボレー・ストロークを利用した試合の進め方について	試合の運営方法や個人のスキルだけではなく協力して色々な攻撃などができるようになる。	A・B・C					
5	第二回 考査範囲	ソフトテニス上級 (体育理論を含む)									
6	考査										
7	第二回 考査範囲	水泳 フットサル上級 (体育理論を含む)	5	自由形・平泳ぎ・背泳ぎについて	自由形・平泳ぎ・背泳ぎの泳法を身に付け、泳げる距離や時間を延ばす。	A・B・C					
			15	水慣れ、バタ足、ビート板を使った練習 ドリブル・パス・シュートの技術向上について	個人だけではなくチームでの技術向上を目指し、円滑にゲームができるようになる。	A・B・C					
8	考査										
9	考査										
10	第三回 考査範囲	バレーボール上級 (体育理論を含む)	15	レシーブやスパイク、三段攻撃を利用した試合の進め方について	試合の運営方法や個人のスキルだけではなく協力して色々な攻撃などができるようになる。	A・B・C					
11	考査										
12	第四回 考査範囲	バスケットボール上級 (体育理論を含む)	15	ゲームでのスクリーンを利用した作戦について	試合の運営方法や個人のスキルだけではなく協力して色々な攻撃などができるようになる。	A・B・C					
1	考査										
2											

3年 音楽Ⅲ

○ 学習のねらい

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。音楽Ⅰでは、音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についても理解を深める。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

予習はありませんが、小中学校で学習してきた音楽の基礎基本は必要です。覚えていること等は授業の中で活かせるようにしましょう。また、それぞれの分野（歌唱・器楽・創作・鑑賞）での取り組みに関して、自分でできること、歌うならば姿勢や声量など意識して取り組むようにしてください。遅刻は厳禁です。時間をよく見て音楽室へ移動してください。

2, 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ① 教科書・筆記用具を忘れないようにすること。
- ② 実技ですので、取り組み姿勢や先生からの指示や注意事項をきちんと聞くこと。
- ③ 楽器を伴う授業があります。楽器類は大切に扱うようすること。
- ④ 実技演奏もあります。授業で取り組んだ成果を出してください。
- ⑤ レポート提出もあります。期日を守って提出すること。

3, 授業後 ～ 復習 ～

授業で取り組んだ内容を頭の片隅に記憶しておきましょう。そしてその時に感じたことや思い、難しい部分などを覚えて、次回に活かしてください。

「宿題」になる課題もありますので、忘れずに。

○ 評価の方法

考査は実施しません。実技練習等への取り組み状況、レポート提出、実技などで評価します。期ごとの授業分野内容によって異なるところがありますが、おおむね実技点が40点～60点、実技練習等への取り組み状況が30～40点、レポート提出点が10～20点となります。

※評価の観点とは以下のとおり。

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する，△：あまり重視しない）

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学習状態観察	実技練習取り組み	提出物	小テスト	実技テスト
		音楽への関心・意欲・態度	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	○	◎	○
音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	○	◎	◎	△	◎
音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、創造的に表している。	○	◎	△	◎	◎
鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。	○	△	○	◎	△

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
芸術	音楽Ⅲ	3年 選択	2	Joy of Music 教育芸術社	なし	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった			
4	第一回 考査 範囲	①いろいろな歌曲を表現 してみよう ①-1 アンコーラー ①-2 混声三部合唱「校歌」	8	①さまざまな楽曲を鑑賞し、それぞれの持つ声質や発声法を学習する。	①さまざまな楽曲を鑑賞し、それぞれの持つ声質や発声法を理解し、表現して歌えるようにする。	A・B・C			
5		②楽器を使ってアンサンブルをしてみよう	10	①音楽Ⅱで取り組んだアンサンブル演奏を生かして、楽器を使ったアンサンブルに取り組む。 ②各楽器のバランスや表現の工夫を考え演奏する。	①自ら意欲的に演奏表現しながら取り組めるようにする。 ②音の調和や音量バランスなど、考えながら演奏できるようにする。	A・B・C			
6	考査		なし						
7	第二回 考査 範囲	③ミュージカルの音楽を 演奏しよう ③-1 「オペラ座の怪人」鑑賞 ③-2 歌唱「All I Ask of You」	9	①英語の発音に気をつけながら、曲の持つ雰囲気に合わせて歌う。 ②ミュージカルの内容にあわせ、表現豊かに演奏する。	①英語の発音に気をつけながら歌うようにする。 ②表現豊かな歌唱と演奏に興味関心を持たせるようにする。	A・B・C			
8		④西洋音楽史について学 習しよう	9	①時代をおいて、ルネサンス～バロック～古典派～ロマン派～現代までの楽曲の時代背景を学習する。 ②楽曲を鑑賞し、批評しながら理解を深める。	①各時代により、音楽の様式や作曲方法が変容していったことを理解する。 ②楽曲を鑑賞し、お互いに感想を述べあいながら表現の違いを味わう。				
9	考査		なし						
10	第三回 考査 範囲	⑤いろいろな音素材を創 造的に用いてアンサン ブルに取り組もう	17	①音楽Ⅱで取り組んだことを生かして、音を厳選しアンサンブルに取り組む。常に音のバランスや調和を考え、チームワークよく取り組む。 ②発表会を実施し、互いの音に注目しながら音楽表現する。	①伴奏や副次的旋律の創作を積極的に行い、調和のとれた演奏を行う。 ②自分たちと他のグループ表現の違いなど気づき、講評する。	A・B・C			
11									
12	第四回 考査 範囲	⑥日本の音楽と世界の音 楽	17	①世界の中の日本の音楽、日本から見た世界の音楽と、幅を広げて、さまざまなことを学習する。 ②文化の違いや歴史背景、伝統芸能など、それぞれの国の楽器の特徴等を学習する。	①声や楽器の音色の特徴やその表現上の効果、楽曲の背景とのかかわりに関心をもち主体的に取り組もうとする。 ②わが国及び世界の音楽の特徴を生かした音楽表現を理解することができる。	A・B・C			
1									
2									
3	考査		なし						

3年 美術Ⅲ

○ 学習の目的とねらい

- ・美術Ⅰ・Ⅱで身に付けた知識や技術を駆使した創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てる。
- ・感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。

○ 学習方法

1 授業の前 ～予習～

進路に向けて忙しい学年ではありますが、身近な媒体を利用して美術作品を鑑賞したり、生活の中にある優れたデザインに目を向けるだけでも十分な美的体験となります。日常生活に、隠れた発想のヒントを見い出しましょう。

2 授業中 ～授業中の注意点～

3年間で学んだ美術の集大成として、Ⅰ、Ⅱで培った知識や技術を駆使し、自分自身が納得のいく作品が制作できるよう、授業には集中して取り組んでください。また指示がなくても、用具の準備や後片付け、身の回りの清掃等も1、2年同様、しっかり行ってください。

2 授業後 ～復習～

各課題の最後に記入する「コンセプト記入用紙・自己評価票」については、制作過程を知る上で重要なものと考えています。造形面、精神面の両面から自分の作品を掘り下げ、より深い思考が見られることを期待しています。

○ 評価の方法

各期の課題(提出作品、ワークシート、小テスト、アイディアスケッチ、エスキース、コンセプト用紙(含自己評価票))と授業への取り組み(課題理解、関心・意欲・態度、主体性、準備・片付け等)を100点満点で評価する。

観 点	評価項目 身につけたい学力を観点別に整理し、以下に示します。	提出作品, アイ ディアスケッチ, エスキース	ワークシート, 小テスト, コン セプト用紙	授業への 取り組み 状況
美術への関心・ 意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	◎	◎	◎
発想や構想の 能力	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	◎	◎	◎
創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて、表現方法を工夫している。	◎	◎	◎
鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	○	◎	◎

※記号の凡例 (◎:特に重視する, ○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
美術	美術Ⅲ	3年 選択	2	高校生の美術3 (日本文教出版)	なし ()	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解(実践)できた B:まあまあ C:理解(実践)できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	ガイダンス	1	年間計画説明 ・鑑賞(教科書・映像鑑賞)	・美術の各分野に対する自身の興味や傾向を分析し、自己理解を図る。 教科書や映像の作品について、深く考察し、その良さや美しさについて自分の言葉で論述する。	A・B・C A・B・C
		絵画「東北の建築を描く」	2	・キャンバス張り ・各自の意図に基づき構図を検討する。	・キャンバス張りの基礎技術を理解し、絵画制作に適した支持体をつくる。 構図、色彩、マチエールの効果を理解し、各自の意図に応じた画面構成をエスキースの段階で十分検討する。 仕上がりを想定した地塗りを施す。	A・B・C A・B・C
		① キャンバス製作		3	エスキースや各自が撮影した写真をもとに制作の下図となる風景のモチーフをデッサンする。	・対象をよく観察し、パースや形態を的確に捉え、主題が伝わる構図にする。 ・明暗による立体感、空間感の表現を工夫し、実感を伴う素描表現を身に付ける。
		② エスキース	11		意図に応じたアクリル表現の可能性を追求する。	・色彩やマチエール等で意図に応じたアクリル表現を工夫、実践する。 ・制作意図や工夫点等の詳細をコンセプト用紙に明確に記述する。 ・他者の作品を鑑賞し、作品の良さや造形的意図を感じ取り、自分の言葉で論述する。
5	第一 回 考 査 範 囲	③ デッサン				A・B・C A・B・C
6		④ 彩色			A・B・C A・B・C A・B・C	
7		考查	なし			
7	第二 回 考 査 範 囲	クラフトデザイン 「カトラリー制作」	13	日常的な道具の制作を通して、素材を生かし、機能性と美しさを兼ね備えた「用の美」の追求を目指す。 ・用途の設定、使用者の想定 ・材料や用具の特性と扱い方	・機能美に配慮して形を構想し、適切にスケッチや製図を行う。 ・意図に応じて材料や用具を効果的に使用し、実際の使用感や強度などを加味し、仕上げの美しさを追求する。 ・コンセプト用紙に制作意図や構造の工夫等を明確に示す。 ・道具の扱いに注意し、片付けをしっかりと行う等、安全で計画的な制作態度を養う。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
		グラフィックデザイン 「ポスター制作」	4	ポスターの目的や機能、条件と造形的な美しさとの調和を考え、創造的にデザインする。 ・デザイン鑑賞/色彩学/構成プロセスについて	・日本や諸外国の優れたポスターを鑑賞し、ポスターの役割や論理性を理解する。 ・造形性や象徴性、可読性に配慮し、デザインを構想する。	A・B・C A・B・C
		① アイディアスケッチ				
8	第二 回 考 査 範 囲	考查	なし			
9		② 描画ソフト演習	5	・描画ソフトの技法演習(宣伝用チラシの作成)	・描画ソフトの技法を理解し、演習課題を正確に丁寧に仕上げる。	A・B・C
10		③ デザイン制作	13	描画ソフトの演習技法を応用し、各自のデザインをコンピューターで制作、コンセプト用紙によるプレゼンテーションを行う。	・描画ソフトの技法を応用しながら、各自の意図に基づき、可読性に配慮した形態と配色、仕上げの美しさを追求する。 ・コンセプト用紙に制作意図を詳細に、分かりやすく記述する。	A・B・C A・B・C
11	第三 回 考 査 範 囲	考查	なし			
12		彫刻 「ペーパーウェイト」	18	量感や塊感を意識しながらあらゆる角度から見て美しい立体を制作する。 ・立体的な見方・考え方/鑑賞 ・材料や用具の特性と扱い方	・材料の特性や量感等に配慮して形を構想し、適切にスケッチや製図を行う。 ・意図に応じて材料や用具を効果的に使用し、強度を加味し、仕上げの美しさを追求する。 ・コンセプト用紙に制作意図や構造の工夫等を明確に示す。 ・道具の扱いに注意し、片付けをしっかりと行う等、安全で計画的な制作態度を養う。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
1						
2	考查	なし				

3年 書道Ⅲ 学習の目標，学習方法，評価方法について

1 学習の目標

- 書道における表現の鑑賞と創造的な活動を通して，書を愛好する心情を育てる。
- 書に親しむ活動を通して感性を高め，書の文化や伝統についての理解を深める。
- 様々な場面に対応できる書写能力を育てながら，主体的に自己を表現する能力を高める。

2 学習方法と授業の注意点

- ・チャイムと同時に用具・用材を準備し磨墨をはじめること。
- ・特に指示がない限り，①教科書 ②筆 ③墨 ④文鎮は用意すること。
- ・毛氈，硯は所定の場所から用意して，授業終了後にもとの場所に戻すこと。
- ・教室はきれいに使用すること。練習した半紙はごみ箱に捨てること。
- ・書道室内は飲食禁止とする。

3 評価方法

各期の評価は，提出物の内容70～90パーセント，観点別評価10～30パーセントとしている。毎回の提出物の評価は10点満点を基準として採点する。
 評価については，①関心・意欲・態度 ②表現の工夫 ③表現の技能 ④鑑賞の能力の4観点で評価する。

評価の観点及び内容		評価方法
書への 関心・意欲態度	書道の創造的な諸活動を通して，生涯にわたり書を愛好する心情や，書の伝統と文化を尊重する態度を身につけようとしている。	学習活動への参加状況や態度 学習の記録の記入状況 試書等の整理状況 制作カードの記入状況 学習のまとめの内容
書表現の 構想と工夫	・感性を磨き創造性豊かな表現を工夫している。 ・確かな表現技法を習得し，それを生かして自由で個性的な表現を工夫している。	作品構想カードの記入状況 試書等の整理状況 学習のまとめの内容
創造的な 書表現の技能	・自己の感興や意図を実現するため構想を具現化し，主体的に個性的 ・創造的な表現を表現することができる。	制作カードの記入状況 学習成果（作品） 学習のまとめの内容
鑑賞の能力	・鑑賞を通して書の伝統と文化について理解している。 ・書と生活や諸文化との関わりについて理解している。	学習活動への参加状況や態度 鑑賞カードの記入状況 学習のまとめ内容

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
書道	書道Ⅲ	3年 教養選択	2	書Ⅲ (教育図書)	なし	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考査 範囲	1 オリエンテーション	1	・書は先人たちの想像力と他の芸術や文化、思想・文学などと関連しながら長い歴史の間に築かれてきた文化であることを理解する。		A・B・C
5		2 漢字の書の学習 (楷書の学習) ①高貞碑 ②楽毅論 ③皇甫誕碑	4 4 4	・臨書や鑑賞を通じて楷書古典のもつ時代性や精神性への理解を深め、個性的、創造的な表現を工夫する。さらに、書体や書風、線質や全体の構成を工夫する。	・それぞれが書いた楷書の違いを確認する。 ・古典の楷書について、人物や線質、形の違いを考える。	A・B・C A・B・C A・B・C
6		④漢字仮名交じりの書	5	・漢字の各書体や書風に調和する仮名の表現について考え、創造的な表現を工夫する。	・自らの感性の高まりと、表現の可能性を感じ取る。	A・B・C
6		考査	なし			
7	第二 回 考査 範囲	(行書・草書の学習) ①枯樹賦	4	・臨書や鑑賞を通じて行書古典・草書古典のもつ時代性や精神性への理解を深め、個性的、創造的な表現を工夫する。さらに、書体や書風、線質や全体の構成を工夫する。	・行書や草書の特徴である速度や線の強弱、連綿性をつかみ日常の書表現に生かす。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
8		②灌頂歴名	4			
9		③李嶠詩雜詠 ④離洛帖	5 5			
9	考査	なし				
10	第三 回 考査 範囲	3 仮名の学習 ①本阿弥切古今和歌集	6	・臨書や鑑賞を通じて、平安時代に仮名の古典のもつ時代性や精神性への理解を深める。	・平安朝の仮名独特の流動美や紙面構成を学び、表現を深める。	A・B・C
11		4 漢字の学習 ①集王聖教序 ②風信帖	12	・各古典の字形や線質の違いを理解し、自分の思いや感動表現できる技法を習得する。	・行書の特徴である速度や線の強弱、連綿性をつかみ日常の書表現に生かす。さらに、作品としての全体構成を考える。	A・B・C A・B・C
12		③①&②の半切作品を制作	なし			
1	第四 回 考査 範囲	5 刻字の学習	16	・刻字は立体的な効果が生まれるため、肉筆と違った味わいを学ぶ。	・芸術性と実用性を兼ね備えた看板や表札の美しさを理解できたか。	A・B・C
2						
3	考査	なし				

3年 工芸 I

○ 学習の目的とねらい

- ・工芸の幅広い創造的活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てる。
- ・感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、工芸の伝統と文化についての理解を深める。

○ 学習方法

1 授業の前 ～予習～

教科書等の予習は必要ありませんが、自然や生活の中の造形的美しさを感じ取ったり、優れた工芸作品やプロダクトデザインに触れる機会を積極的に持つ等、日頃から自己の感性を磨くことを薦めます。また、課題の前に関連する分野を様々な媒体を使って自分で調べてみることもアイデアを出すヒントとなります。

筆記用具や課題ごとに指示された用具は授業の前に各自で準備するようにしてください。遅刻は厳禁です。

2 授業中 ～授業中の注意点～

授業では多様な表現を学び、自分の作品として仕上げていきます。常に“主体的に”集中して授業に取り組み、完成までの見通しを持って制作することが大切です。また、用具の手入れや後片付け、身の回りの清掃等は声がけがなくともしっかり行ってください。夏場等の指示された時以外は飲食物の持ち込みは禁止となります。

3 授業後 ～復習～

各課題の最後に、各自の意図や意欲をみる「コンセプト記入用紙・自己評価票」の記入があります。出来上がった作品の完成度だけでなく、どれだけ考えて(意図を持って)制作したかということも作者の制作過程を見る上で重要なことと考えています。また自分自身で課題をフィードバックし、次の課題の見通しを立てる機会にもなります。

○ 評価の方法

各期の課題(提出作品、ワークシート、小テスト、アイデアスケッチ、エスキース、コンセプト用紙(含自己評価票))と授業への取り組み(課題理解、関心・意欲・態度、主体性、準備・片付け等)を100点満点で評価する。

観 点	評価項目			
	提出作品、アイデアスケッチ、エスキース	ワークシート、小テスト、コンセプト用紙	授業への取り組み	状況
工芸への関心・意欲・態度	◎	◎	◎	◎
発想や構想の能力	◎	◎	◎	◎
創造的な技能	◎	◎	◎	◎
鑑賞の能力	○	◎	◎	◎

※記号の凡例 (◎:特に重視する, ○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
工芸	工芸 I	3年 選択	2	工芸 I (日本文教出版)	なし ()	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解(実践)できた B:まあまあ C:理解(実践)できなかった
4	第一回 考查範囲	オリエンテーション・工芸概論	1	授業の内容とその取り組み方,教科書の評価方法を確認する。	・授業内容を知り,工芸の学習に対する意欲を持つとともに,くらしと工芸,美の秩序,機能と造形等について興味を持つ。	A・B・C
		革工芸 「ペントレイ制作」	10	皮革の特性と技法を理解し,日常で使うペントレイの制作を行う。 ・皮革の歴史,革の特性 ・エンボス技法,スタンピング技法 ・革の染色技法	・ワークシートで形や図柄を構想し,適切にスケッチや製図を行う。 ・意図に応じて材料や用具を効果的に使用し,機能性や仕上げの美しさを追求する。 ・コンセプト用紙に制作意図や工夫点等を明確に示す。	A・B・C A・B・C A・B・C
5	第二回 考查範囲	金属工芸 「指輪制作」	7	鍛金技法による銀製の指輪制作 ・金属工芸の歴史,技法の特徴 ・鍛金技法による成形 ・磨きの技法	・概念的な制作態度を養う。	A・B・C
					・機能美に配慮して形を構想し,実際の使用感を加味しながら適切にスケッチや製図を行う。 ・鍛金の技法を理解し,芯金による成形や研磨作業で,機能性や仕上げの美しさを追求する。 ・コンセプト用紙に制作意図や工夫点等を明確に示す。	A・B・C A・B・C
6	考查		なし			
7	第三回 考查範囲	陶芸 「暮らしの器制作」	16	「板づくり」による器の制作 ・やきものの歴史,種類 ・粘土の練り方 ・板作りによる成形法 ・釉薬や絵付けの技法	・機能美に配慮して形を構想し,実際の使用感を加味しながら適切にスケッチや製図,型紙の制作を行う。 ・陶芸の技法を理解し,板づくりによる成形作業や釉薬掛け等で,機能性や仕上げの美しさを追求する。 ・コンセプト用紙に制作意図や工夫点等を明確に示す。	A・B・C A・B・C A・B・C
					・道具の扱いに注意し,片付けをしっかりと行う等,計画的な制作態度を養う。	A・B・C
8	考查		なし			
10	第四回 考查範囲	編組工芸 「かごの制作」	22	伝統的な編みの技法を応用し,用途に応じた「かご」をデザイン・制作する。 ・編組工芸の材料と種類 ・編みの種類と技法	・かごの大きさと材料の長さ・本数の関係を理解する。 ・機能美に配慮して形を構想し,材料の長さ・本数を加味しながらワークシートに構想を練る。 ・編みの基礎技法を理解し,応用的な成形作業で,機能性や立体感,仕上げの美しさを追求する。 ・コンセプト用紙に制作意図や工夫点等を明確に示す。	A・B・C A・B・C A・B・C
					・道具の扱いに注意し,片付けをしっかりと行う等,安全で計画的な制作態度を養う。	A・B・C
11	考查		なし			
12	第五回 考查範囲	木工 「小さな入れ物」の制作	12	無垢材をくり抜き,用途に応じた小さな入れ物を制作する。 ・用途の設定,使用者の想定 ・材料や用具の特性と扱い方	・機能美に配慮して形を構想し,適切にスケッチや製図を行う。 ・意図に応じて材料や用具を効果的に使用し,実際の使用感などを加味し,仕上げの美しさを追求する。 ・コンセプト用紙に制作意図や構造の工夫等を明確に示す。	A・B・C A・B・C A・B・C
					・道具の扱いに注意し,片付けをしっかりと行う等,安全で計画的な制作態度を養う。	A・B・C
2	考查		なし			
3						

3年 コミュニケーション英語Ⅲ

○ 学習のねらい

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

本文を読み、概要をつかむ。意味がわからない単語については、文脈等を利用し、推測しながら読む習慣を身につける。わからない箇所に関しては、辞書や参考書を用いて、確認しておく。

2 授業中

- ①イントネーション、アクセント、音と音とのつながり等に注意して音声を聞き、正しく音読する。
- ②単語・表現・構文を確認し、活用できるように、しっかりと覚える。
- ③ペア・グループワークに意欲的に取り組む。
- ④英文を書く際には、既習事項や辞書を積極的に活用する。
- ⑤板書事項だけでなく口頭での説明も集中して聞き、必要に応じてメモを取る。
- ⑥疑問点は必ず質問をして解決する。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ①単語・表現・構文等を確認しながら、本文を繰り返し読む。
(最終的には、頭の中で英語を日本語に直さなくても意味が取れるまで読む。)
- ②教科書、ワークブック、プリント等の問題をもう一度解く。

○ 評価の方法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。

観 点	評価項目	スピーキ	ライティ	リスニン	定期考査 (リーデ イング)
		ング	ング	グ	
	身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。				
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語 活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	◎	○	○	◎
外国語表現の能力	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなど を適切に伝えている。	○	◎	○	◎
外国語理解の能力	外国語で聞いたり読んだりして、情報や考えなど を的確に理解している。	○	○	◎	◎
言語や文化についての知 識・理解	外国語の学習を通して、言語やその運用につい ての知識を身につけているとともに、その背景にあ る文化などを理解している。	○	○	○	◎

※記号の凡例 (◎：特に重視する, ○：重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
英語	コミュニケーション 英語Ⅲ	3年 全クラス	4	Revised LANDMARK English Communication III (啓林館)	Revised LANDMARK English Communication III WORKBOOK 英語4技能型テストへのアプローチ(数研出版)	140

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容	到達目標	自己評価
				※どのような内容を学ぶのか。	※どのようなことを身に付けたいか。	A:理解できた B:ある程度理解できた C:理解できなかった
4	第一 回 考查 範囲	Lesson1 Caffeine:The World's Favorite Drug	12	①カフェインの日常的な使用と効果、文化の関わりを理解する。 ②カフェインによる健康被害の可能性について理解する。 ③カフェインの利点について理解する。	①トピック:科学 テキストタイプ:説明文の読み方を理解する。 ②新語数:56語 内容に適した新語を理解し使うことができる。 ③語句:due to~, a number of~を理解することができる。 動詞:owe A to B, attribute A to B.の語法を理解することができる。 ④ 構文:This is why~, It is true that~を使うことができる。	A・B・C
		Lesson2 Blood is Blood	12	①当時の黒人差別の実態を理解する。 ②ドルーが発見した輸血方法について理解する。 ③黒人差別と闘うドルーの主張を理解する。 ④活動を通じてドルーが証明したことを理解する。	①トピック:人権 テキストタイプ:説明文の読み方を理解する。 ②新語数:32語 内容に適した新語を理解し使うことができる。 ③語句:in spite of~, instead of~を使うことができる。 動詞:persuade+人+to do, tell+人+todoを使う事ができる。 ④構文:強調構文を理解することができる。	A・B・C
		Lesson3 Australia and its Creatures	12	①オーストラリア独自の生態系について理解する。 ②特殊な生態系を作り出す2つの要因について理解する。 ③厳しい気候に生きる動物たちの習性について理解する。 ④自然あふれるオーストラリアの魅力について理解する。	①トピック:環境・生物 テキストタイプ:説明文の読み方を理解する。 ②新語数:56語 内容に適した新語を理解し使う事ができる。 ③語句:be made of, rather than, bring aboutを使う事ができる。 ④構文:withを使った付帯状況, This is the reason why~を理解することができる。	A・B・C
6	考查		1			
7	第二 回 考查 範囲	Lesson4 \$100,000 salt and Pepper shaker	12	①遊園地で買った品物を落としてしまった兄弟の気持ちを理解する。 ②新品の塩コショウ入れを渡してしまった兄弟の気持ちを理解する。 ③店員の行動が遊園地に多大な利益をもたらすことになったことを理解する。	①トピック:人生・生き方 テキストタイプ:随筆の読み方を理解する。 ②新語数:42語 内容に適した新語を理解し使うことができる。 ③語句:in search of~, be grateful to 人+for~を理解することができる。 ④ 構文:not A but B, the day when~を使うことができる。	A・B・C A・B・C
		Lesson5 Bilingual Effects in the Brain	12	①バイリンガルの人は脳の構造が違うという論文の内容を理解する。 ②音に対する脳の反応を調べた実験内容を理解する。 ③2言語以上話せることが脳に与える良い影響について理解する。 ④バイリンガル能力は赤ん坊のときから育つことを理解する。	①トピック:脳科学 テキストタイプ:説明文の読み方を理解する。 ②新語数:38語 内容に適した新語を理解し使うことができる。 ③語句:pay attention to~, compared with~を使うことができる。 動詞 allow+人+to do, find +it +形容詞+todoを使う事ができる。	A・B・C A・B・C
		Lesson6 Communication without Words	12	①コミュニケーションの7割をボディ・ランゲージが占めることを理解する。 ②ボディ・ランゲージは国や文化によって違うことを理解する。 ③海外の人と理解し合うためにはボディ・ランゲージを学ぶことが大切なことを理解する。 ④誤解を防ぐためにも自身のボディ・ランゲージを知ることが大切なことを理解する。	①トピック:コミュニケーション テキストタイプ:論説文の読み方を理解する。 ②新語数:49語 内容に適した新語を理解し使う事ができる。 ③語句:be aware of, deal with, refer to~を使う事ができる。 ④構文:比較に関する構文, 分詞構文を理解することができる。	A・B・C A・B・C
9	考查		1			
10	第三 回 考查 範囲	Lesson7 Political Correctness	12	①差別や偏見のない用語を使うことが推奨されていることを理解する。 ②行き過ぎた用語制限に潜む問題を理解する。 ③正しい用語の使い方は次世代によることを理解する。	①トピック:社会問題 テキストタイプ:論説文の読み方を理解する。 ②新語数:60語 内容に適した新語を理解し使うことができる。 ③語句:for short, as a result of~を理解することができる。 ④ 構文:be supposed to do ~, whether A of Bを使うことができる。	A・B・C
		Lesson8 Animal Math	12	①動物に、数学的な能力があることを理解する。 ②イヌはボールまでの最短距離を計算できることが実験からわかったことを理解する。 ③霊長類は数の違いを理解することが実験からわかったことを理解する。 ④動物は自然界で生き残るために数学を用いてきたことを理解する。	①トピック:生物・科学 テキストタイプ:論説文の読み方を理解する。 ②新語数:53語 内容に適した新語を理解し使うことができる。 ③語句:even thoughを使うことができる。 ④構文:I wonder if ~, when it comes to~を理解することができる。	A・B・C
		Lesson9 The Story of My Life	12	①サリバン先生の教育方法を理解する。 ②サリバン先生が教える「愛」を理解する。 ③「愛」を理解したヘレンの心情を理解する。	①トピック:人生 テキストタイプ:随筆の読み方を理解する。 ②新語数:45語 内容に適した新語を理解し使う事ができる。 ③語句:be eager for, be unable to~を使う事ができる。 ④構文:it seemed that.過去の推量を理解することができる。	A・B・C
12	考查		1			
12	第四 回 考查 範囲	Lesson10 Extinction of Languages	10	①世界で半数の言語が消滅の危機にさらされていることを理解する。 ②言語の消滅とはアイデンティティの消滅でもあることを理解する。 ③言語の消滅を防ぐため人々がしている取り組みについて理解する。	①トピック:言語 テキストタイプ:論説文の読み方を理解する。 ②新語数:70語 内容に適した新語を理解し使うことができる。 ③語句:at least, as well asを理解することができる。 ④構文:so that ~を使うことができる。	A・B・C
		Lesson11 Learning a First Culture	10	①子どもが社会性を身に付けるために必要とする文化の重要性を理解する。 ②本文中のそれぞれの国の文化を理解する。 ③成長した子どもにとつての重要なコミュニケーション力を理解する。	①トピック:社会・文化 テキストタイプ:説明文の読み方を理解する。 ②新語数:48語 内容に適した新語を理解し使うことができる。 ③語句:prefer to~, whereasを使うことができる。	A・B・C
		Lesson12 Light Pollution	10	①人工の光が生まれた理由欠点を理解する。 ②人工の光が生態系に影響を及ぼしていることを理解する。 ③人工の光が人間の生体リズムを崩す原因となることを理解する。	①トピック:環境・科学 テキストタイプ:論説文の読み方を理解する。 ②新語数:77語 内容に適した新語を理解し使う事ができる。 ③語句に関するもの:as much as, no less thanを使う事ができる。 ④構文:無生物主語を理解することができる。	A・B・C
1	考查		1			
2 ・ 3						

3年 英語表現Ⅱ

○ 学習のねらい

- ①英語を通じて、積極的にコミュにケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ②事実や意見などを多様な観点から考察，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ①教科書の Study Point の模範文を読み，内容を把握する。
- ②わからない単語・熟語は辞書で確認をする。
- ③ Check と EXERCISES の解答をノートに書く。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ①解説を聞き，板書事項や口頭での説明をノートに書く。
- ②発音・アクセント・イントネーションに注意しながら，英文を音読する。
- ③ペアワーク・グループワーク・プレゼンテーション等に積極的に取り組む。
- ④疑問点があれば必ず質問をし，理解に努める。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ①授業のノートを見返し，学習内容を確認する。
- ②習った文法事項・表現を確認しながら教科書の英文を何度も音読する。
- ③ Check と EXERCISES の問題をもう一度解き，理解を深める。

○ 評価の方法

下記の観点に基づいて100点満点で評価する。

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し，以下に示します。	スピー	ライテ	リスニ	定 期
		キング	ィング	ング	考 査
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュにケーションに関心を持ち，積極的に言語活動を行い，コミュにケーションを図ろうとする。	◎	○	○	◎
外国語表現の能力	外国語で話したり書いたりして，情報や考えなどを適切に伝えている。	○	◎	○	◎
外国語理解の能力	外国語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解している。	○	○	◎	◎
言語や文化についての知識・理解	外国語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身につけるとともに，その背景にある文化などを理解している。	○	○	○	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
英語	英語表現Ⅱ	3年 全クラス	2	Vivid English Expression Ⅱ NEW EDITION (第一学習社)	Vivid English Expression Ⅱ NEW EDITION WORKBOOK(第一学習社) 高校総合英語 Harmony (いっずな書店)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査範囲	Lesson 17	3	接続詞(時, 条件, 譲歩, 原因・理由, 目的, 結果)	平和について考え, 根拠や逆説を示しながら自分の意見を表現することができる。	A・B・C
		Lesson 18	3	関係代名詞のまとめ, 関係代名詞what	自分の好きなものや人について, 関係代名詞を用いて表現できる。	A・B・C
		Lesson 19	4	関係副詞, 複合関係詞	科学技術の発展について, 身近なものを例に挙げながら表現することができる。	A・B・C
		Lesson 20	4	仮定法過去, 仮定法過去完了, I wish+仮定法	自分の進路とは異なる進路について考え, 視野を広げるとともに, その意見を表現することができる。	A・B・C
5		第一回考査期間のまとめ(Lesson 33)	4	パラグラフライティング(例示)	今期に学習した表現を用いて, 与えられたテーマについての自分の意見を例示を含めて表現することができる。	A・B・C
	考査		1			
7	第二回 考査範囲	Lesson 21	3	部分否定, 二重否定, 否定語主語, 準否定	本やインターネットの利点や欠点について考え, 意見を表現できる。	A・B・C
		Lesson 22	4	強調表現, 名詞構文	広瀬高校をより良い学校にするためにしたいことについて考え, 表現できる。	A・B・C
		Lesson 23	3	感謝, 喜びに関する表現	感謝していることや喜びを感じたことについて, 一定の語数で表現できる。	A・B・C
		Lesson 24	4	謝罪, 同情に関する表現	テレビや新聞のニュースをみてあなたが感じたことを一定の語数で表現できる。	A・B・C
9		第二回考査期間のまとめ(Lesson 35)	4	パラグラフライティング(比較・対照)	今期に学習した表現を用いて, 与えられたテーマについての自分の意見を, 比較・対照を含めて表現することができる。	A・B・C
	考査		1			
10	第三回 考査範囲	Lesson 25	4	希望, 願望に関する表現	家族や友人としてみたいことを一定の語数で表現できる。	A・B・C
		Lesson 26	3	申し出, 提案, 勧誘に関する表現	友人を自分が好きな活動に誘うために必要なことを考え, 一定の語数で表現できる。	A・B・C
		Lesson 27	4	承諾, 拒否に関する表現	友人から提案されたことに対して, 理由を加えながら承諾や拒否をすることができる。	A・B・C
		Lesson 28	3	助言, 依頼に関する表現	自分が暮らす町のおすすめを一定の語数で表現できる。	A・B・C
11		第三回考査期間のまとめ(Lesson 36)	4	パラグラフライティング(時間配列)	これまでに学習した表現を用いて, 与えられたテーマについて, 時間的順序に従って表現できる。	A・B・C
	考査		1			
12	第四回 考査範囲	Lesson 29	4	許可, 命令に関する表現	卒業後の自分に対して命令文を用いたスローガンを作ることができる。	A・B・C
		Lesson 30	4	原因, 理由に関する表現	身近で社会的な事柄についての自分の考えを, 原因や理由を含めながら表現することができる。	A・B・C
		Lesson 38	4	スピーチ	これまでに学習した表現を活用しながら, 卒業後の自分の目標等を導入, 本論, 結論の流れで表現できる。	A・B・C
	考査		1			
2						
3						

3年 英語会話

○ 学習のねらい

- ① 英語を通じて、自分の意見や考え、身近な話題について会話する能力を身につける。
- ② 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
- ③ 英語での会話を通して、異文化への興味や関心を高め、広い視野で物事を考える姿勢を身につける。

○ 学習方法

英語会話は実技の授業と言える。よって、授業中の取り組みが重要である。

また、スピーチ原稿を作成したり、会話文を覚えたりするなどの課題が出されることがある。

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ・ 次時のレッスンのテーマについて、自分の意見や考えをまとめておく。
- ・ 英文の発音や意味などを確認しておく。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ・ イントネーションやアクセント、ジェスチャーや表情など、自然な会話が成り立つために必要な要素を取り入れた話し方を意識する。
- ・ 重要なイディオムや構文を覚え、会話に取り入れる。
- ・ ペアワークやグループワークなどの共同作業、スピーチやプレゼンテーションといった表現活動に意欲的に取り組む。
- ・ 間違いを恐れずに発言するなど、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ・ 学習したフレーズや、自身について表現した英文をスラスラ言えるまで練習する。

○ 評価の方法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。

観 点	評 価 項 目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	スピー キング	ライ ティ ング	リス ニン グ	定 期 考 査
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	◎	○	○	◎
外国語表現の能力	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	◎	◎	○	◎
外国語理解の能力	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	○	○	◎	◎
言語や文化についての知 識・理解	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○	○	○	◎

※記号の凡例 (◎：特に重視する，○：重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
英語	英語会話	3年選択	2	Sailing English Conversation (啓林館)	WORKBOOK Sailing English Conversation (啓林館)	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	UNIT1 Warm-up1 English Around the World	18	・自己紹介をする	・自己紹介することができる。 ・他者の自己紹介を聞いて必要な情報を得ることができる。	A・B・C
		Warm-up2 People Around Us		・他者を紹介する	・友人や周囲の人物を紹介することができる。 ・他者紹介を聞いて必要な情報を得ることができる。	A・B・C
5	第二回 考查範囲	UNIT2 Lesson1 What Day Is Convenient for You?	18	・学校生活や予定について述べる	・学校生活について必要な情報を得て、会話できる。 ・自分の予定を述べたり、相手の予定を質問したりできる。	A・B・C
Lesson2 How Was Last Sunday?		・週末の出来事について会話する ・後悔を述べる		・過去の出来事について質問したり答えたりできる。 ・できなかったことに対する後悔を表現できる。	A・B・C	
6		1				
7	第三回 考查範囲	Lesson3 Could I Have an Extra Blanket?	18	・機内で会話する ・依頼/禁止を表現する	・機内を想定して、自分の要求を伝えることができる。 ・機内アナウンスから必要な情報を聞き取ることができる。	A・B・C
8		Lesson4 Who's Calling, Please?		・電話で応答する ・他者を誘う	・電話で応答したり、必要な情報を得ることができる。 ・誘ったり、誘いに応答したりすることができる。	A・B・C
9		Lesson5 How Can I Get There? Show & Tell		・道案内をする ・感謝する ・紹介文を作成・発表する	・道を聞いたり教えたりできる。 ・感謝したり、感謝に応答したりすることができる。 ・写真や道具を見せながら好きな物を紹介できる。	A・B・C
10	第四回 考查範囲	Lesson6 May I Help You?	18	・買い物をする ・情報を得る	・買い物の場で応答できる。 ・買いたい物の色やサイズ、値段などを聞き出すことができる。	A・B・C
11		Lesson7 You Look Nice in That Dress!		・パーティーで会話する ・他者をほめる/描写する	・相手をほめたり、ほめる言葉を受けたりできる。 ・他者を描写することができる。	A・B・C
11		Lesson8 I'm Not Feeling Well Lesson9 I Want to Be a Diplomat		・病院で会話する ・体調について述べる/助言する ・職業について会話する ・未来や希望について述べる	・体の部位や症状の表現を使って体調を伝えることができる。 ・体調や病気などに関して助言することができる。 ・未来について述べる。 ・自分の希望を述べる。	A・B・C
12	第五回 考查範囲	Lesson10 Do You Share the Housework?	12	・家事について会話する ・意見を述べたり、話を付け加えたりする	・家事について述べる。 ・自分の意見や考えを、その理由とともに述べる。	A・B・C
1		Listening Test		・色々な場面の英語を聞く	・会話が行われている場所や物の配置等を推測できる。	A・B・C
1		UNIT3 Our School Life Studying Abroad Case Studies		・学校生活で英語を活用する ・留学先で文化を学ぶ ・意見を発表する	・意見を述べたり、ある意見への賛成/反対を表現できる。 ・会話を聞いて、その概要をとらえることができる。 ・自分の考えをまとめて発表することができる。	A・B・C A・B・C A・B・C
2			1			
3				※各考查期間中に、2～3回のパフォーマンステストを行う。		

令和2年度 宮城県宮城広瀬高等学校英語科 Can-Do リスト

	読むこと	評価方法	CE FR	聞くこと	評価方法	CE FR	書くこと	評価方法	CE FR	話すこと (やりとり)	評価方法	CE FR	話すこと (発表)	評価方法	CE FR
1 年前期	辞書の引き方(品詞の別)がわかる。「～禁止」等の短い簡単な指示を読み、理解することができる。辞書を使えばスラッシュごとの意味を理解することができる。	授業	A1	自分や学校・地域などの身の回りの事柄および趣味や部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、主要なメッセージである場所や時間等の重要かつ具体的な情報を聞き取ることができる。	授業・定期考査	A1	自分のこと(趣味・好き嫌いなど)や身近で簡単な事柄について、語彙や例文を参考に正確に書くことができる。	授業・課題・定期考査	A1	なじみのある/基礎的な定型表現を用いて、時間・日時・場所についての質問や、限られた個人情報についての質問をすることができる。またそれらの質問に適切な表現を用いて答えることができる。	授業・パフォーマンステスト	A1	定型表現や例文を参考に趣味・家族・好き嫌いや基本的な情報(時間・場所など)について、基本的な語句や表現を用いて、伝えることができる。	授業・パフォーマンステスト	A1
1 年後期	簡単なポスターや招待状などに日常生活で使われる短い簡単な文章を読み、理解することができる。簡単な複文を読み、その内容を理解することができる。	授業・小テスト・定期考査	A1	自分や学校・地域などの身の回りの事柄および買い物や食事など外で活動する上で必要な指示や説明を、ゆっくりはっきりと話されれば、主要なメッセージに加えて、付属的な情報をほぼ聞き取ることができる。	授業・定期考査	A1	日常の話題について、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や表現を用いて情報・考え・気持ちなどを伝える短文20～30語程度で書くことができる。	授業・課題・定期考査	A1	なじみのある/基本的な語や言い回しを用いて、日常会話レベルの簡単な質問/単純な応答のやりとりをすることができる。 Ex:様々な事柄の好き嫌いに関する意見交換	授業・パフォーマンステスト	A1	前もって発表の準備をすれば、身近な話題についての簡単な意見や日常生活の出来事について、基本的な語句や表現を学習した構文を用いて言うことができる。	授業・パフォーマンステスト	A1
2 年前期	簡単な語を用いて書かれた、個人的に興味のある文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	小テスト・定期考査	A1	学校の事柄・個人的な旅行の日程・スポーツ・料理などの身近な話題および公共の場でのアナウンスなど、高校生にとって比較的平易な社会的な話題を、ネイティブにとってやや遅いスピードで話されれば、主要なメッセージは聞き取ることができる。	授業・定期考査	A2	日常的な話題について支援を活用すれば、場面・状況に応じて、語句・表現を用い、and, but, orなどの接続詞や、if, whenなどの時・条件節を活用し、自分の意見を3文程度で書くことができる。	授業・課題・定期考査	A1	趣味や部活動・家事など、従事していることや没頭していることについて紹介したり、簡単な構文を用いた感想および疑問詞を用いた質疑応答をしたりすることができる。	授業・パフォーマンステスト	A1	前もって発表の準備をすれば、身近な話題や日常生活に関する簡単な事実について、基本的な語句や表現を学習した構文を用いて、筋道立てながら言うことができる。	授業・パフォーマンステスト	A1
2 年後期	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、文化の紹介などの、説明文を理解することができる。	小テスト・定期考査	A2	学校の事柄・個人的な旅行の日程・スポーツ・料理などの身近な話題および公共の場でのアナウンスなど、高校生にとって比較的平易な社会的な話題を、ネイティブにと	授業・定期考査	A2	自分に直接かかわりのある環境(学校・地域・社会)での出来事を見たり、聞いたりした意見を支援を活用し、基本的なディスコースマーカー	授業・課題・定期考査	A2	写真や地図などとともに、first/then/nextなどのマーカーを用いながら、順序立てて説明することができる。	授業・パフォーマンスマ	A2	写真や地図を利用し、簡単な語句や文を用いて、趣味や特技で話を膨らませながら自分のことについて紹介したり、学校や地域などについて話したりすることができる。	授業・パフォーマンスマ	A2

令和2年度 宮城県宮城広瀬高等学校英語科 Can-Do リスト

		査		ってやや遅いスピードで話されれば、主要なメッセージに加えて、付随的な情報をほぼ聞き取ることができる。			を用い3文程度で書くことができる。	考查			ンステスト			ンステスト	
3年前期	関係詞、仮定法など複雑な文法項目が入った文章でも全体の意味を理解することができる。スラッシュ同士のつながりを理解することができる。	小テスト・授業・定期考查	A2	高校生にとってやや複雑な内容である。外国の社会や習慣・国際問題などの説明や天気予報・空港などのアナウンスについて、ネイティブにとって普通に近いスピードで話される少し長めの内容を聞いて、主要なメッセージは、曖昧な部分がありながらも、推測し把握することができる。	授業・定期考查	B1	社会的な話題について、事前の準備で一定の支援を活用すれば、自分の意見を基本的なディスコースマーカ―を活用し論理性に注意して伝える文章を書くことができる。	授業・課題・定期考查	A2	簡単な英語で、ものごとに対しての、賛成・反対および付随する自分の考えや気持ちを、定型表現を用いて伝えることができる。 (+α) また他と比較をしながら客観的な情報を伝えることができる。	授業・パフォーマンステスト	A2	簡単な語句や文を用いて、自分の意見や予定・計画を、理由を挙げながら述べることができる。	授業・パフォーマンステスト	A2
3年後期	抽象的な内容の文でも、自分で内容を整理しながら理解することができる。自分に必要な情報をやや長い文章から取り出すことができる。	小テスト・定期考查	B1	高校生にとってやや複雑な内容である。外国の社会や習慣・国際問題などの説明や天気予報・空港などのアナウンスについて、ネイティブにとって普通に近いスピードで話される少し長めの内容を聞いて、付随的な情報は少し曖昧でも、主要なメッセージは把握することができる。	授業・定期考查	B1	社会的な話題について、聞いたり、読んだりしたことを基に、基本的な語句や例文を用いて一定の支援を活用すれば、論理性のある内容を50～80語程度の文章を書くことができる。	授業・課題・定期考查	B1	自分の従事していること(趣味・部活動・家での暮らし)について、簡単な英語を用いて、多くの情報を伝えたり、それに対しての意見や気持ちなどをやりとりしたりすることができる。	授業・パフォーマンステスト	B1	前もって発表の準備をすれば、使える語句や表現を活用して、自分の夢や経験を順序立てある程度詳しく話したり、関心のある社会的な出来事について聞き手を混乱させないように伝えたりできる。	授業・パフォーマンステスト	B1

CEFR	スコア	実用英語技能検定			スコア	GTEC			TEAP
B2	2599			準1級	1349			374	
	2300				1190			309	
B1	2299		2級		1189			308	
	1950				960			225	
A2	1949	準2級			959	Core	Basic	Advanced	224
	1700				690				135
A1	1699	3級			689				
	1400				270				

3年 生活と福祉（選択科目）

○ 学習のねらい

我が国の高齢者の人口は急激に増え続け、これまでに例のない、超高齢社会に向かっている。「高齢者福祉」を中心とし、「福祉に関する一般教養」の観点から、生涯にわたる健康と生活の管理及びそれを支える社会保障・福祉制度について学ぶ。基礎的な介護・看護技術や生活に役立つ技術を習得する。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

座学では前回の授業プリントを確認し、教科書を一通り読んでおくこと。

日頃から健康・栄養・福祉・介護・看護など、生活に関わる問題に関心を持ち、本や新聞、関連する情報番組なども意識して観るよう努める。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

座学では、板書のみならず口頭での説明も良く聞き、大切なことはメモを取りながら受ける。

実習では、担当教諭の指示をふまえて、積極的・自主的且つ安全に配慮して行動する。

3 授業後 ～ 復習 ～

座学ではプリントがまとめられているかを確認し、不十分な場所は教科担当に質問等して補っておく。

実習では、まとめのレポートを書き上げる。その際に空欄など無いようにきちんと書き上げること。又、新たな発見や失敗の原因などにも触れておくこと。

○ 評価の方法

・ 考査について

1年間で定期考査を4回行う。実技テストを加えることもある。

定期考査ではどれくらいの知識が定着しているか等を、提出物や授業・実習態度では学習に対する関心・意欲等を中心に評価する。

・ 下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち定期考査の割合は60～80%とする

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学 習	発	提	実	定 期
		状 況 の 観 察	表	出 物	習 態 度	考 査
関心・意欲・態度	高齢者を取り巻く課題について関心をもち、情報を収集することができる。	○	○	◎		◎
思考・判断・表現	各ライフステージにおける課題について、考えたりまとめることができる。	○	◎	○		◎
技 術	高齢者にみえられる心身の変化に対応した体位変換・歩行・車椅子の移乗・移動などの基本的な介護技術を習得することができる。	○		○	◎	
知識・理解	日本の高齢者の特徴とその背景、高齢者福祉の現状と課題について理解している。	◎		○		◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
家庭科	生活と福祉	3年 選択	2	なし	生活と福祉 (実教出版)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査範囲	オリエンテーション 1章 人の一生と生活・健康	1 17	1、年間の授業計画や評価方法 1、健康の概念	・健康寿命やQOLを高めることが課題であることを理解できる ・健康の成立要因について理解し、生活習慣と関連付けて考察できる ・病気の予防について、その概念と分類について理解できる	A・B・C
5				2、ライフステージと健康管理 *看護実習	・各ライフステージにおける健康課題や目標を理解できる ・健康診査や検診などの健康管理の必要性を理解する ・体温、脈拍、血圧測定など看護の基本技術を身につける ・体格指(BMI)の計算や、糖度測定、塩分の測定実習をとおして、自分の食生活や生活習慣に関心をもち、健康状態を判定することができる ・歩行介助、車椅子の移乗、移動ができる	A・B・C A・B・C
6		(5章 介護・看護の実習と生活支援)		(*介護実習)		A・B・C
	考査		1			
7	第二回 考査範囲	2章 高齢化の現状と高齢者の特徴	16	1、高齢化の現状	・人口の高齢化はなぜ起こるのかを理解することができる ・日本の高齢者福祉が、国際的にみてどのような特徴をもっているのかを理解できる	A・B・C
8				2、高齢者の心身の特徴と病気	・加齢による心身の変化とその特徴を具体的に理解できる ・高齢者の病気の特徴や事故の特徴について理解できる	A・B・C
9		(5章 介護・看護の実習と生活支援)		3、高齢者の生活課題と施設 (*介護実習)	・高齢者人口の増大や高齢期の長期化に伴う所得、仕事、健康問題、介護、社会参加などの生活課題を理解できる ・高齢社会に対する施策を理解し、考察できる ・衣服の着脱、身体の清潔方法(手浴)ができる	A・B・C
	考査		1			
10	第三回 考査範囲	3章 高齢者の自立生活支援	17	1、自立生活支援の基本となる考え方	・ノーマライゼーションやユニバーサルデザインなどの社会福祉の基本的な考え方を理解できる	A・B・C
11		(5章 介護・看護の実習と生活支援)		2、高齢者介護 1、介護の実習 2、看護の実習 3、生活支援 (*介護実習)	・介護予防の考え方にもとづいた見守りや支援の重要性について理解できる ・視聴覚障害・認知症等がある高齢者の介護を理解できる ・地域や生活のなかでのリハビリテーションについて事例を通して理解できる ・ペットメーキング、シーツ交換ができる ・介護食の調理実習および食事介助ができる	A・B・C
	考査		1			
12	第四回 考査範囲	4章 高齢者支援の法律と制度	15	1、社会保障制度と高齢者福祉のあゆみ	・日本の高齢化の進展状況を把握し、高齢社会に対応した社会保障や福祉制度を理解できる ・高齢者福祉のあゆみを理解し、特に老人福祉法や介護保険法の目的や理念、具体的な施策について考察できる	A・B・C
				2、介護保険制度	・介護保険制度のおもな介護サービスやサービス利用までの流れについて理解できる	A・B・C
1		(5章 介護・看護の実習と生活支援)		3、高齢者支援と地域包括ケアシステム 1、介護の実習 2、看護の実習 3、生活支援 (*介護実習)	・高齢者支援のさまざまな制度について理解し、その課題について考察できる ・基本的な介護技術を総合的に身につけることができる	A・B・C A・B・C
	考査		1			
2						
3						

3年 子どもの発達と保育

○ 学習のねらい

- ・乳幼児期が人間発達の基礎を培う時期であることを踏まえ、子どもの発達の特性や発達過程、保育に関する知識と技術を身につけることができる。
- ・地域の子育て支援に寄与する能力と態度を身につけることができる。

○ 学習方法

授業前 ～ 予習 ～

特に指示された時以外は、予習の必要はありませんが、保育に関する話題に常に関心を持ち、ニュースや新聞記事などを意識して見るように努め、保育に関する知識を増やしておくといでしょう。

授業中 ～ 授業中の注意点 ～

座学では、板書のみならず口頭での説明も聞き、大切なことはメモを取りましょう。実習では、指示をよく聞き、積極的・自主的に取り組みましょう。

授業後 ～ 復習 ～

座学では、ノートやプリントがまとめられているかを確認しておきましょう。実習等では、記録や自己評価をまとめ、提出してもらいます。授業を振り返り、わかったことや、感想、課題などを明確にし、しっかり振り返りましょう。

○ 評価の方法

- ・1年間で定期考査を4回行います。実技テストを加えることもあります。
- ・定期考査では、どれくらいの知識が定着しているか等を、提出物や授業・実習態度では、学習に対する関心・意欲等を中心に評価します。

※下記の観点に基づいて100点満点で評価を行います。このうち定期考査の割合は60～80%とします。

観 点	評価項目	学 習 態 度	発 表 等	提 出 物	実 習 態 度	定 期 考 査
	身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。					
関心・意欲・態度	子どもの発達や子育て支援について関心を持ち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身につけている。	○	○	◎	◎	◎
思考・判断・表現	子どもを産み育てることや、家族の役割や地域の子育て支援などについて課題を見だし、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身につけている。	○	◎	◎		◎
技能	子どもと触れ合ったり、子育て支援を行っている人々と交流を図ったりする学習を通して、子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。	○		○	◎	
知識・理解	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識を身につけている。	○		○		◎

※記号の凡例 (◎：特に重視する, ○：重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
家庭	子どもの発達と保育	3年 選択	2	子どもの発達と保育 育つ・育てる・育ち合う (教育図書)	なし	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A.理解できた B.まあまあ C.理解できなかった
4	第一回 考査範囲	オリエンテーション	1	子どもの発達と保育を学ぶにあたって		
5		第1章 子どもの発達の特性 ①生涯発達における乳幼児期の重要性 ②発達と環境 ③発達観・児童観とは ・VTR視聴	7	・乳幼児期の大切さ ・発達を支える環境 ・発達と環境 ・多様な環境の中で育つ子ども ・保育にみる発達観と児童観 ・子どもが自ら育つ「発達」へ ・変わってきた「子ども」への関心	・ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。 ・子どもは、さまざまな環境の影響を受けながら発達していくことを知る。 ・子どもが保護・養育される権利をもち、尊重されるべき存在であると認識されるまでの歴史を知る。	A・B・C A・B・C A・B・C
6		第2章 子どもの発達過程 ①身体発育と運動機能の発達 ②乳幼児期のからだの発育 ③乳幼児期の発達の特徴 ・VTR視聴	10	・発育と発達と成長 ・乳幼児期の発育の特徴 ・乳幼児期の生理的特徴 ・乳幼児期の発達 ・乳幼児期の感覚・運動機能の発達	・身体発育と運動機能の発達には一定の順序と方向性があることを知る。一方で、個人差が大きいことも理解する。 ・乳幼児期の発育について、生理的特徴について知る。 ・人は生まれながらにしてさまざまな感覚機能を持っていることを認識する。	A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
7	第二回 考査範囲	④人間関係の発達 ⑤心の発達 ・VTR視聴	8	・人との絆(愛着関係)の形成 ・自立と対人関係 ・情緒の発達 ・認知機能の発達	・愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。 ・安全基地としての親の重要性について理解する。対人関係と社会性の発達について考える。 ・子どもと大人ではものどらえ方に違いがあることを知る。言葉の発達の順序について理解する。	A・B・C A・B・C
8		第3章 子どもの生活 ①子どもの健康と生活 ・新生児人形実習 ②子どもの食事 ・幼児食実習	9	・大人の役割は ・養護の具体的な方法 ・基本的生活習慣の習得 ・社会的生活習慣の習得 ・栄養と食生活 ・乳幼児の食事、離乳 ・乳幼児の食事の実態と問題点	・養護の必要性・目的を理解し、発達の段階に応じた適切な養護の方法を知る。 ・基本的生活習慣と社会的生活習慣の違いを理解し、その具体的な内容について知る。 ・子どもの栄養と食生活の特徴を知り、必要なエネルギーと栄養素について理解する。	A・B・C A・B・C
9		考査	1			
10	第三回 考査範囲	③子どもの衣服 ④子どもの遊びと生活 ・手作り絵本実習 ⑤子どもの健康管理	18	・衣服の役割と条件 ・衣服の選択・調節 ・おむつや寝具 ・子どもの遊びと児童文化財 ・子どもの生活と住環境 ・子どもの健康 ・子どもの病気と看護 ・病気の予防 ・現代の子どもの健康 ・住まいと子どもの危険 ・応急処置と救急用品 ・心の健康	・乳幼児に適した被服の素材・型を知り、適切な被服計画ができるようになる。 ・適切な寝具やおむつの使い方を理解する。 ・子どもの情操・感性・知的探究心などを豊かにするために適切な児童文化財を選択できるようになる。 ・子どもの健康を守るための保育者の役割を理解し、健康状態の観察方法を知る。 ・子ども特有の病気について知る。また、病気の際に落ち着いて対処するための知識を得る。 ・住まいに潜む危険について理解し、家や学校など身近な場所の危険についても考えることができる。 ・子どもの心の健康について理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C
11		考査	1			
12	第四回 考査範囲	第4章 子どもの保育 ①保育の意義と目標 ②保育の方法 ③保育の環境	13	・保育とは何か ・保育の目的と目標 ・子どもの健やかな育ちを支える ・発達過程に応じた保育 ・子どもが育つ環境の変化 ・さまざまな保育の場	・人間形成の基礎を培う乳幼児期の大切さと保育の意義について考える。 ・子どもの成長には、子どもを受け止め理解してくれる大人の存在が不可欠であることを知る。 ・発達過程の特徴と、段階に応じた保育の方法を理解する。 ・家庭での保育と集団保育のそれぞれの意義を学び、課題について考える。	A・B・C A・B・C A・B・C
1		第5章 子どもの福祉と子育て支援 ①子どもの福祉 ②子育て支援		・児童福祉の理念と関係法規・制度 ・福祉にかかわる施設 ・これからの子どもの福祉	・子どもの福祉の理念について理解する。 ・児童福祉法や児童福祉関連施設について理解する。 ・男女共同参画社会や、これからの福祉について考える。	A・B・C A・B・C
	考査		1			

3年 フードデザイン（選択科目）

○ 学習のねらい

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインする能力と態度を育てる。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

座学では前回の授業プリントを確認し、教科書を一通り読んでおくこと。

実習については、実習の目的と内容を確認し、おおよその手順を頭に入れておくこと。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

座学では、板書のみならず口頭での説明も良く聞き、大切なことはメモを取りながら受ける。

実習では、担当教諭の指示をふまえて、積極的・自主的且つ安全に配慮して行動する。

3 授業後 ～ 復習 ～

座学ではプリントがまとめられているかを確認し、不十分なところは教科担当に質問等して補っておく。実習では、まとめのレポートを書き上げる。その際に空欄など無いようにきちんと書き上げる。又、新たな発見や失敗の原因などにも触れておくこと。

○ 評価の方法

・ 考査について

1年間で定期考査を4回行う。実技テストを加えることもある。

定期考査ではどれくらいの知識が定着しているか等を、提出物や授業・実習態度では、学習に対する関心・意欲等を中心に評価する。

・ 下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち定期考査の割合は60～80%とする

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学	発	提	実	定	
		習	表	出	習	期	
		状	現	物	態	考	
		況	察	態	度	査	
		の					
		観					
		察					
関心・意欲・態度	食の役割に関心を持ち、作ることから食べるところまでを総合的にとらえて計画する意欲と実践的な態度を身につけることができる。	○	○	◎	◎	◎	
思考・判断・表現	自分自身の食生活や食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断できる。	○	◎		◎	◎	
技術	調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を習得することができる。	○	◎	◎	○		
知識・理解	食事の意義と役割について理解するとともに、栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得することができる。	○	○		◎	◎	

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
家庭科	フードデザイン	3年 選択	2	フードデザイン cooking&arrangement (教育図書)		70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査 範囲	オリエンテーション	16	年間の授業計画や評価方法		
5		第1章 健康と食生活 第3章 調理と献立 (第4章調理実習)		1、食事の意義と役割 2、食をとりまく現状 4、様式別の献立と調理・食卓作法 1、調理の基本 2、ライフステージと食事 ・調理実習(2~3回)	・家族・友人等集団での食事を共にすることの意義を再確認し、実践することができる ・和風、洋風、中国風等それぞれの様式に応じた食卓構成と作法について理解する ・だし、味覚効果、料理の触感や温度、素材の持ち味等おいしさに関わる要素を理解し、調理に生かせる ・年代に応じた摂取基準と特徴を理解することができる	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
6		考査		1		
7	第二回 考査 範囲	第2章 栄養素・食品の特徴	19	4、食品の特徴	・さまざまな食品の栄養的な特徴、調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理に生かせる ・多様で多量な輸入食材と日本の食糧事情の現状と将来について考える	A・B・C A・B・C
8		第3章 調理と献立 (第4章調理実習)		3、献立作成 5、食文化を見つめる ・調理実習(2~3回)	・栄養バランス、年齢、性、身体活動レベル、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、用途に適した献立を作成し調理できる ・郷土料理や行事食について理解することができる	A・B・C A・B・C
9		考査		1		
10	第三回 考査 範囲	第2章 栄養素・食品の特徴	16	1、栄養素の働き 2、健康に必要な栄養素 3、消化と吸収 5、食品の加工 6、食品の取り扱い ・調理実習(2~3回)	・人間が食品の摂取により栄養をどのように取り入れていくか、食物が体内でどのように消化・吸収され、活用されていくかを理解することができる ・各種栄養素の特徴と体内でのはたらきについて理解することができる。 ・冷凍食品、レトルト食品、調理済惣菜等様々な食品の現状を知り、それらをどのように各自の食生活にとり入れていくかを考える ・食中毒や衛生についての知識を深め、衛生と安全に配慮した調理ができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
11		考査		1		
12	第四回 考査 範囲	第3章調理と献立 (第4章調理実習)	15	6、テーブルコーディネート ・外部講師による調理実習・講義 ・調理実習(2~3回)	・和風、洋風、中国風等それぞれの様式に応じた食卓構成と作法について理解する。 ・異国の食文化や食材の違いを理解し、調理することができる。	A・B・C A・B・C
1		第5章豊かな食生活をつくる		1、国民運動としての食育の推進	・食生活を見直すための取り組みや食育について理解することができる。	A・B・C
2	考査		1			
3						

3年 情報処理

○ 学習の目的とねらい

ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの書活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。

- (1) 情報の活用と情報モラル
- (2) 情報通信ネットワークとセキュリティ管理
- (3) ビジネス情報の処理と分析
- (4) ビジネス文書の作成
- (5) プレゼンテーション

「情報処理」の到達目標

- ・ビジネスの諸活動における情報の意義や役割を理解し、情報をビジネスに積極的に活用する態度を身につける。
- ・コンピュータの基本的な仕組みやソフトウェアなどに関する基礎的な知識を習得し、目的に応じた機器の利用ができる。
- ・表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェア、情報通信ネットワークなどを活用したビジネス情報の処理ができる。

○ 学習方法と授業の注意点

- ・実習科目なので、できる限り欠席しないこと。
- ・情報処理室の利用について違反しないこと。また、服装は正装とする（ブレザー着用(夏服以外)）。
- ・教科書、副読本、筆記用具を忘れずに持参し、授業時間前に入室を完了すること。
- ・提出物は提出期限を守ること。

【情報処理の授業について】

- ・授業は原則として情報処理室で行う。 ・授業で配付されたプリントはファイルに整理して綴じておく。
- ・実習において全員が必ず取り組むよう指示された課題を「必修課題」と呼ぶ。必修課題は、その時間中に完成させ授業担当者のチェックを受ける。

○ 評価の方法（考査・注意事項と観点別評価の付け方）

観点別評価については、日々の授業における以下の点について100点満点で総合的に判断し評価する。

- ・観察・・・・・・・・・・・・・・・・授業へ取り組む姿勢・態度・活動を観察する。
- ・提出物・・・・・・・・・・・・・・・・プリント提出、およびその内容と授業内に取り組む必修課題の完成状況。
- ・作品・・・・・・・・・・・・・・・・課題による制作した作品の評価。
- ・実技テスト・・・・・・・・・・・・実技テストは授業内で行うこととし割合を原則50～60%とする。

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学 習	提 出	作 品	実 技
		状 態 の 観 察	物		テ ス ト
関心・意欲・態度	情報の収集・処理・分析・表現について関心を持ち、情報を活用する実践的な態度を身に付けている。	◎	◎	◎	◎
思考・判断・表現	ビジネスの諸活動において思考を深め、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	◎	◎	◎	◎
技能	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用している。	○		◎	◎
知識・理解	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の意義や役割について理解している。	○		◎	◎

※記号の凡例 (◎：特に重視する, ○：重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
商業	情報処理	3年 選択	2	最新情報処理 Advanced Computing (実教出版)	30時間でマスターWord&Excel (実教出版)	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	情報の活用と情報モラル 1)ビジネスと情報 2)情報モラル	2 2	・ビジネスの諸活動における情報の役割とコンピュータ活用をする。 ・情報モラルについて学ぶ。	・ビジネスの諸活動における情報の役割とコンピュータを利用した情報活用の重要性を理解し身につける。 ・情報化社会に参画するために個人が身につけるべき情報モラルについて理解する。	A・B・C A・B・C
5		3)ハードウェアとソフトウェア 1. 基本操作 2. ビジネス文書と表現 3. 図形と画像の活用 4. ビジネス文書の基本作成 5. ビジネス文書の応用作成	14	・文書作成ソフトの利用に関する知識と技術を学習する。文書作成の要領について実習する。	・文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。 ・図形や画像情報の活用により情報の簡潔化、明瞭化、印象の強化などの効果が期待できることについて理解する ・文書作成の多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む応用的な知識と技術を身につける。	A・B・C
6		考查	1			
7	第二回 考查範囲	ビジネス情報の処理と分析 1)基本的な表の作成	6	・合計、平均、最大値、最小値、判定、件数カウント、端数処理、順位付けや日付などの関数を学習する。	・関数を利用して有用なビジネス情報を導き出すための技法を身につける。	A・B・C
8		2)グラフの作成と関数を利用した表の作成 ○よく使う関数 ○応用的な関数①	4 4 4	・グラフ作成、さまざまな関数をつかう。 ・数学や統計、論理、検索、日付、文字列などの関数を利用した表が作成できる。	・グラフを用いて表のデータをわかりやすく表現できるようにするため、グラフの基礎知識や作成方法を理解する。 ・たくさんの関数や書式の機能を理解する。	A・B・C
9		考查	1			
10	第三回 考查範囲	○応用的な関数② 1. 金融に関する計算 1)利息の計算 2)積立金の計算 3)利率の計算 2. その他の関数	2 1 1 2	・表計算ソフトウェアを金融計算に活用するための関数を学習する。 ・日常生活の使用頻度は少ないが、金融に関する知識として必要な関数を学ぶ。	・表計算ソフトウェアを金融計算に活用するために、利息や積立金、ローンなどの計算方法を理解する。 ・日常生活の使用頻度は少ないが、金融に関する知識として必要な関数を学び理解する。	A・B・C A・B・C
11		3. 情報の整列・検索・抽出 1)データの整列 2)データの検索・抽出 4. ビジネスと統計 1)統計の基礎 2)統計的推測と技法	2 6 2 2	・データベースソフトウェアの構造や整列、検索、抽出などの表の基本操作を学ぶ。 ・統計資料を分析し最適な方法を表計算ソフトウェアの機能を利用して学ぶ。	・データベースの特徴とこれをビジネスに活用することの意義を理解する。また、クエリを用いた抽出、結合、集計、計算などの操作により、データベースから必要な情報を必要な形で取り出して活用する方法を理解する。 ・目的に応じた適切な計算やビジネスにおける需要予測などの傾向をとらえる力を習得する。	A・B・C A・B・C
		考查	1			
12	第四回 考查範囲	情報通信ネットワークとセキュリティ管理 1. 情報通信ネットワークの概要 2. ビジネス情報の検索と収集	1 1	・ビジネス情報の検索と活用方法を学習する。 ・電子メールの利用方法について学ぶ。 ・個人が身につけるセキュリティ管理を学習する。	・情報通信ネットワークの概要と、ビジネスにおけるインターネットの様々な利用方法やその効果について理解する。 ・情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法について理解する。 ・電子メールの利用方法を理解し身につける。	A・B・C A・B・C
1		総合演習 ○プレゼンテーションソフトによる作品作成と発表	11	・プレゼンテーションソフトによる実習	情報化社会に参画するために個人が身につけるべき情報モラルや、セキュリティ管理の方法について理解する。 ・さまざまなソフトウェアをプレゼンテーションソフトに複合させて作品を作成し、発表及び相互評価まで行う学習をおこなうことで情報活用の総合まとめとする。	A・B・C
2						
3						

3年 ビジネス基礎

○ 学習の目的とねらい

ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての心構えを身につけるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。

○ 学習方法と授業の注意点

1. 授業の前 ～ 予習 ～

次回学習する箇所について新聞やニュース、インターネットを利用して事前に最低限の知識をつけておくこと。

2. 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ①授業の開始、終了の「挨拶」をしっかりする。
- ②板書するだけでなく、重要だと思った説明は先生の指摘がなくとも自らノートに書き留める。また、電卓や実務的な書類・書式を使用しての実習にも積極的に取り組む。
- ③授業は集中して聞き、ポイントをメモする。

3. 授業後 ～ 復習 ～

- ①授業で学習したことを新聞やニュース、インターネットを利用して知識を深め、日常生活に生かす。
- ②問題集を解き、授業の理解度を確認する。

○ 評価の方法（考査・注意事項と観点別評価の付け方）

1. 考査について

- ・教科書、問題集、プリント、授業中話したことやノート、プレゼン時事問題などから出題する。
- ・暗記する問題だけではなく、思考力が問われる問題を多く出題する。また、実習で行う電卓を使用しての計算問題や実務的な書類・書式からも出題する。

2. 観点別評価について

観点別評価については、日々の授業における以下の点について100点満点で総合的に判断し評価する。

- ・観察・・・・・・・・・・授業へ取り組む姿勢・態度・活動を観察する。
- ・プレゼンテーション実習・・授業前に毎時各2～3名ずつ時事に関するプレゼンを行い評価として算出する。
- ・提出物・・・・・・・・・・プリントや作品、及びレポートなどを提出する。
- ・ノート（提出物）・・・・・・・・考査前に提出し記入内容をチェックする。
- ・確認テスト・・・・・・・・・・単元毎に小テストを実施する。

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学 習	プ レ	提 出	確 認	定 期
		状 態	ゼ ン	物	テ	考
		の 観	発 表	な 等	ス	査
		察	等	な 等	ト	
関心・意欲・態度	ビジネスについて関心を持って主体的に取り組もうとし、心構えや実践的な態度を身につけている。	○	◎	◎		◎
思考・判断・表現	ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。	○	◎	◎	◎	◎
技能	ビジネスに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、活用している。	○	◎			◎
知識・理解	ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、理解している。	○			◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
商業	ビジネス基礎	3年 選択	2	ビジネス基礎 (実教出版)	ビジネス基礎 問題集 (実教出版)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回考査範囲	・商業の学習ガイダンス ・経済生活と流通の基礎	2	・ビジネスの世界の特徴的な4つのシーン	・ビジネスについての基礎・基本を学んでいく意味や目的、年間を通しての指導方針について理解する。ビジネスの理解力と実践力を身につけることの必要性を理解する。	A・B・C
5		1. 経済のしくみとビジネス	7	・経済社会の仕組み ・経済の基本的な考え方からビジネスの国際化、情報化、サービス経済化について学習する。	・商品(もの・サービス)の定義を紹介し、経済の仕組み(生産・流通・消費)や経済主体と経済循環などについて理解する。また、サービス経済化の意味と特徴を理解する。	A・B・C
6		2. 社会の変化とビジネスの発展	8	・環境問題やエネルギー問題、食料問題などの課題に対して、ビジネスがどのように対応しようとしているか、側面を学習する。	・ものまたはサービスを生産するビジネスやものを流通させるビジネス、流通を円滑にするビジネスなど、経済を支えるビジネスに関心が向き、グローバル化されたビジネスの定義および役割を理解する。	A・B・C
6	考査		1			
7	第二回考査範囲	・経済生活と流通の基礎 3. 経済活動と流通 ・企業活動の基礎	3	・生産・流通・消費の観点から経済生活と流通の関係を学習していく。	・生産と消費の隔たりを橋渡しすることが流通の役割であることを理解する。	A・B・C
8		1. ビジネスと企業	15	・流通の機能を学習。そして、企業の資金調達や税金、従業員の雇用について学習する。また、企業家精神、企業経営について学習していく。	・流通の機能を学習し、流通活動全体に共通する経済的特徴を小売業の業種・業態の関わりから理解する。経済社会の発展や消費者ニーズの多様化にともない流通活動はどのように変化していったのかを考察させる。	A・B・C A・B・C
9		2. 資金と調達 3. 企業活動と税 4. 雇用 5. 企業理論		・企業の形態を学習していく中で、私企業、公企業、公私合同企業の違いについて様々な経営組織を理解する。	A・B・C A・B・C	
9	考査		1			
10	第三回考査範囲	・ビジネスの担い手 1. ものの生産者 2. サービスの生産者	18	・生産者、小売業者、卸売業者、物流業者、金融業者、保険業者、情報・通信業者、サービス業者それぞれの役割、種類、ビジネスの内容、今後の動向について学習する。	・生産者、小売業者、卸売業者、物流業者、金融業者、保険業者、情報・通信業者、サービス業者それぞれの役割、種類、ビジネスの内容、今後の動向について理解する。	A・B・C A・B・C
11		3. 小売業者 4. 卸売業者 5. 物流業者 6. 金融業者 7. 情報通信業者				A・B・C A・B・C A・B・C
11		考査		1		
12	第四回考査範囲	・ビジネスと売買取引 1. ビジネスと売買取引 ア. 売買取引の手順 イ. 代金決済	5	・売買取引書式や小切手、約束手形、為替手形の書式を使用しイメージを持って実務的な学習をする。	・代金の支払い方法を理解する。小切手、約束手形、為替手形は理解しにくい内容なので小切手、約束手形、為替手形の見本を使用して、実際に取引が行われたことを想定させて説明し書式を使用することでイメージを持ち理解する。	A・B・C
1		2. 売買に関する計算 ア. 売買に関する計算の基礎 イ. 売買に関する計算の応用	5	・売買の際に使用する単位や計算方法を学習する。 ・基準量と比較量、割増しおよび割引の計算について学習する。度量衡と貨幣換算の問題演習を行う。	・割合の表わし方、基準量と比較量、割増しおよび割引の計算について理解する。度量衡と貨幣換算の意味を理解する。	A・B・C
1	考査	3. ビジネスとコミュニケーション	3	・ビジネスシーンで会社の顔としての意識・身だしなみ・心づかいなど学習する。また、電話や来客の場面におけるビジネスマナーをロールプレイングする。	・コミュニケーションには、手段や対象などによって分類できることを説明し、いろいろなコミュニケーションについて理解する。また、よりよい人間関係を築くために、ビジネスマナーがとても重要であることを理解する。	A・B・C
2						
3						

【4】 今回の考査において、自分の目標・予想よりも出来が良くなかった科目を1～3科目あげてみよう。
 その出来が良くなかった理由を、各科目ごと下記の「1～5」中から選んで記入しよう。(複数の理由もOK)

教科・科目名			
理由			

- ＜理由の選択肢＞
1. 勉強時間が短かったから
 2. 勉強の仕方が悪かったから
 3. 他の科目に力を入れたから (力を入れた科目: _____)
 4. 以前から苦手だったから
 5. その他(具体的に、上記の欄に書き込む)

【5】 自分の勉強の仕方、学習内容がしっかりと身についていると思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
----	--	------	--

科目		学習方法	
----	--	------	--

【6】 自分の勉強の仕方、学習内容があまり身につけていないと思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
----	--	------	--

科目		学習方法	
----	--	------	--

【7】 次の考査に向けて、点数が良くなかった科目の学習方法を、今後どのように改善しますか。

科目		学習方法	
----	--	------	--

科目		学習方法	
----	--	------	--

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

【4】 今回の考査において、自分の目標・予想よりも出来が良くなかった科目を1～3科目あげてみよう。
 その出来が良くなかった理由を、各科目ごと下記の「1～5」中から選んで記入しよう。(複数の理由もOK)

教科・科目名			
理由			

- ＜理由の選択肢＞
1. 勉強時間が短かったから
 2. 勉強の仕方が悪かったから
 3. 他の科目に力を入れたから (力を入れた科目: _____)
 4. 以前から苦手だったから
 5. その他(具体的に、上記の欄に書き込む)

【5】 自分の勉強の仕方、学習内容がしっかりと身につけていると思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
----	--	------	--

科目		学習方法	
----	--	------	--

【6】 自分の勉強の仕方、学習内容があまり身につけていないと思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
----	--	------	--

科目		学習方法	
----	--	------	--

【7】 次の考査に向けて、点数が良くなかった科目の学習方法を、今後どのように改善しますか。

科目		学習方法	
----	--	------	--

科目		学習方法	
----	--	------	--

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

【4】 今回の考査において、自分の目標・予想よりも出来が良くなかった科目を1～3科目あげてみよう。
 その出来が良くなかった理由を、各科目ごと下記の「1～5」中から選んで記入しよう。(複数の理由もOK)

教科・科目名			
理由			

- ＜理由の選択肢＞
1. 勉強時間が短かったから
 2. 勉強の仕方が悪かったから
 3. 他の科目に力を入れたから (力を入れた科目: _____)
 4. 以前から苦手だったから
 5. その他(具体的に、上記の欄に書き込む)

【5】 自分の勉強の仕方、学習内容がしっかりと身につけていると思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
----	--	------	--

科目		学習方法	
----	--	------	--

【6】 自分の勉強の仕方、学習内容があまり身につけていないと思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
----	--	------	--

科目		学習方法	
----	--	------	--

【7】 次の考査に向けて、点数が良くなかった科目の学習方法を、今後どのように改善しますか。

科目		学習方法	
----	--	------	--

科目		学習方法	
----	--	------	--

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

【4】 今回の考査において、自分の目標・予想よりも出来が良くなかった科目を1～3科目あげてみよう。
 その出来が良くなかった理由を、各科目ごと下記の「1～5」中から選んで記入しよう。(複数の理由もOK)

教科・科目名			
理由			

- ＜理由の選択肢＞
1. 勉強時間が短かったから
 2. 勉強の仕方が悪かったから
 3. 他の科目に力を入れたから (力を入れた科目: _____)
 4. 以前から苦手だったから
 5. その他(具体的に、上記の欄に書き込む)

【5】 自分の勉強の仕方、学習内容がしっかりと身につけていると思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
----	--	------	--

科目		学習方法	
----	--	------	--

【6】 自分の勉強の仕方、学習内容があまり身につけていないと思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
----	--	------	--

科目		学習方法	
----	--	------	--

【7】 次の考査に向けて、点数が良くなかった科目の学習方法を、今後どのように改善しますか。

科目		学習方法	
----	--	------	--

科目		学習方法	
----	--	------	--

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

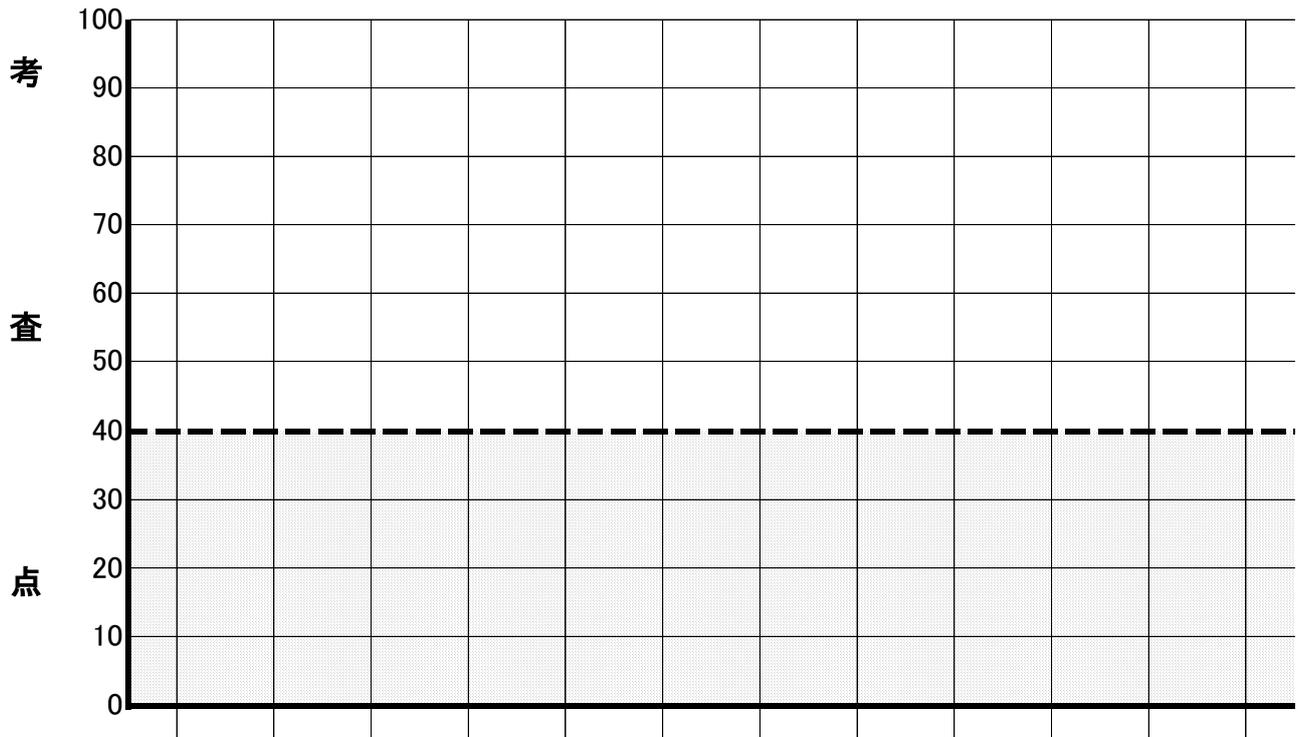
○ 考查点をグラフで書きましょう

1期:黒

2期:赤

3期:青

4期:緑



科目名												
1期考查点												
2期考查点												
3期考查点												
4期考查点												

○ 評価点
のまとめ

1期評価点												
2期評価点												
3期評価点												
3期までの 合計点												
目標評定												
4期 目標点												
4期評価点												

- 評定「5」: 評価点80~100点
- 評定「4」: 評価点70~79点
- 評定「3」: 評価点50~69点
- 評定「2」: 評価点40~49点
- 評定「1」: 評価点39点以下

私のスケジュール

起床時間・就寝時間・学習時間など記入しましょう

	月	火	水	木	金	土	日
5:00							
6:00							
7:00							
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							
23:00							
0:00							

学校

私のスケジュール

起床時間・就寝時間・学習時間など記入しましょう

	月	火	水	木	金	土	日
5:00							
6:00							
7:00							
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							
23:00							
0:00							

学校

印刷業者

株式会社 鈴木印刷所

住所 983-0852

仙台市宮城野区榴岡 3-8-1

TEL 022-295-5905

FAX 022-295-1985

3年	組	番	氏名
----	---	---	----